III.調 査 結 果

１．男女の地位に関する意識

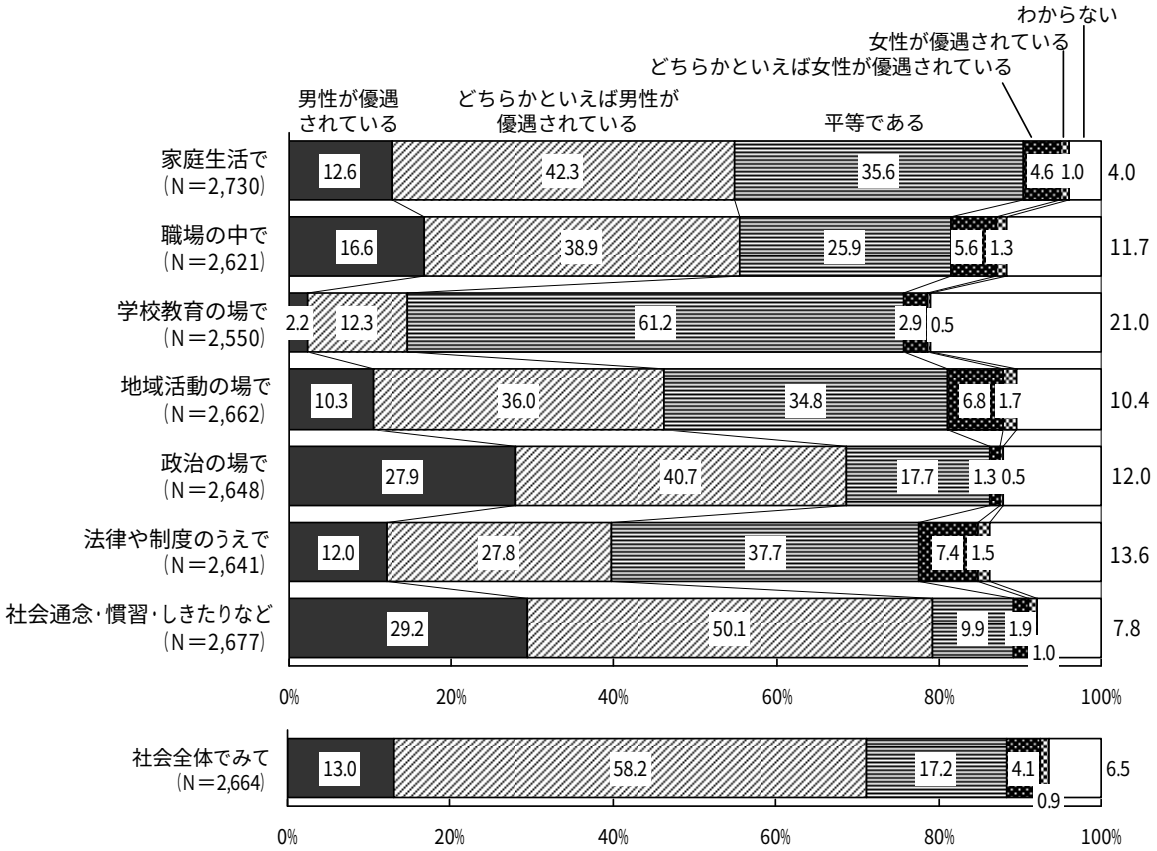
1　各分野での男女の地位の平等感

● 社会全体でみると『男性が優遇』されているが約７割

『男性が優遇』(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)は、「社会全体でみて」では約７割を占めている。

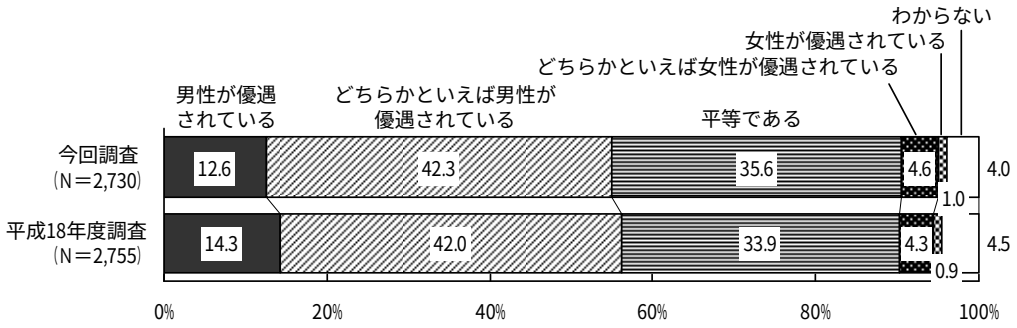
分野別にみると、「社会通念・慣習・しきたりなど」では約８割が『男性が優遇』となっており、「政治の場で」は約７割が『男性が優遇』となっている。

「平等である」は、「学校教育の場で」が最も高く６割を超えている。



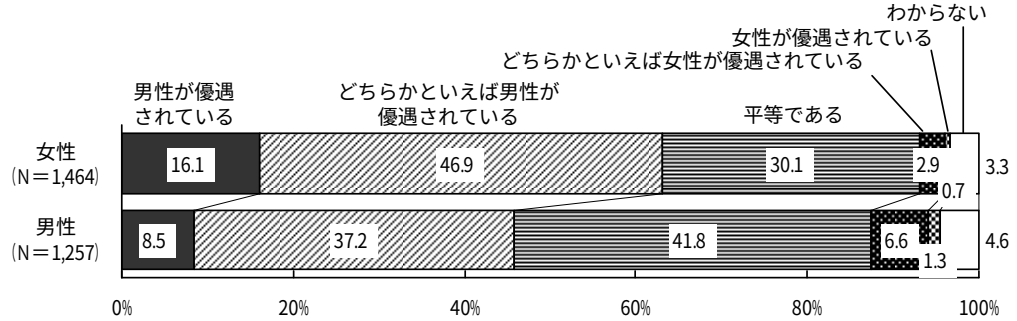
（1）家庭生活で

『男性が優遇』は 54.9%で、平成 18 年度調査と比較して 1.4 ポイント低下しており、「平等である」は 35.6%で、1.7 ポイント高くなっている。



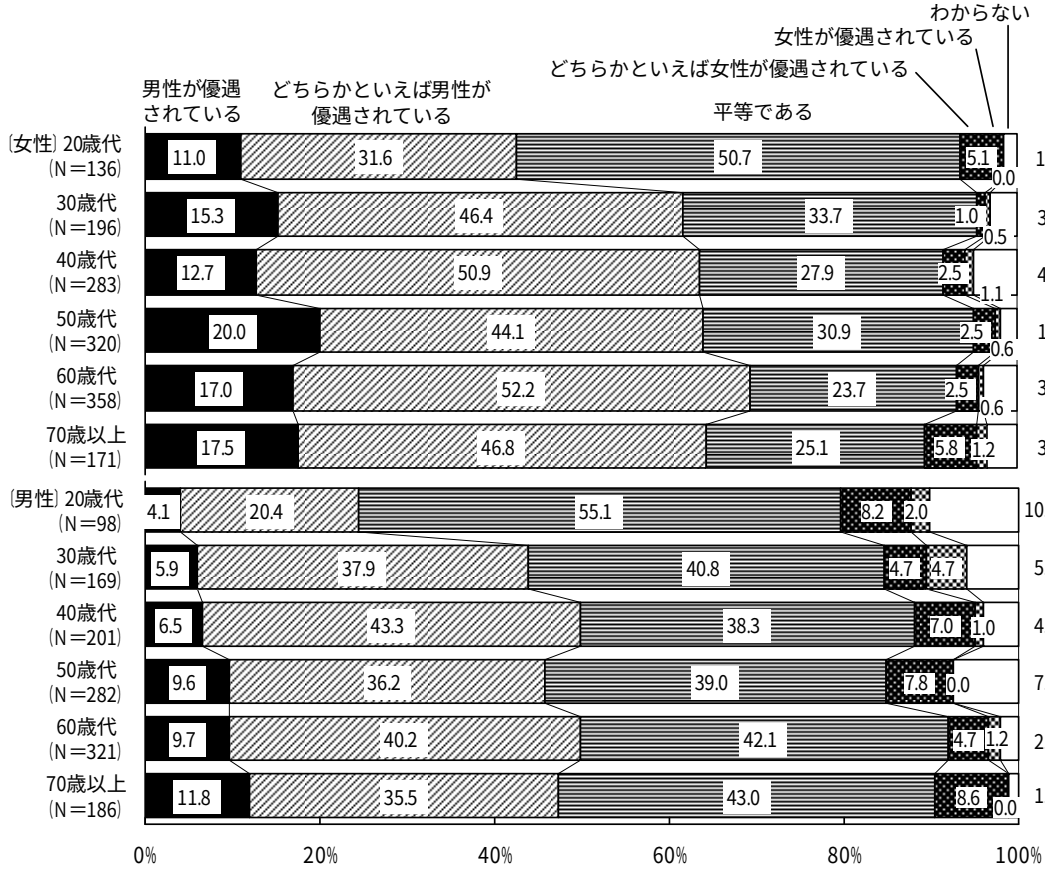
【性別】

『男性が優遇』は、女性が 63.0%で、男性（45.7%）を 17.3 ポイント上回っている。「平等である」は、女性 30.1%、男性 41.8%で、男性が女性より 11.7 ポイント高くなっている。



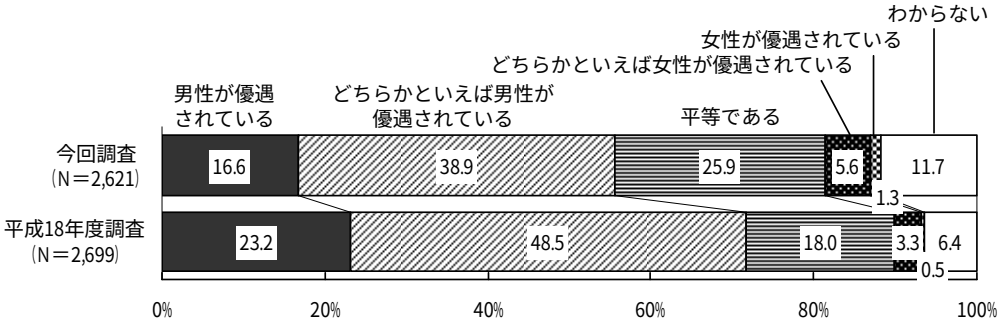
【性・年代別】

「平等である」は、男女とも 20 歳代で最も高く 5 割を超えている。『男性が優遇』は、いずれの年代においても女性の方が高くなっており、なかでも女性の 60 歳代では 7 割近くとなっている。



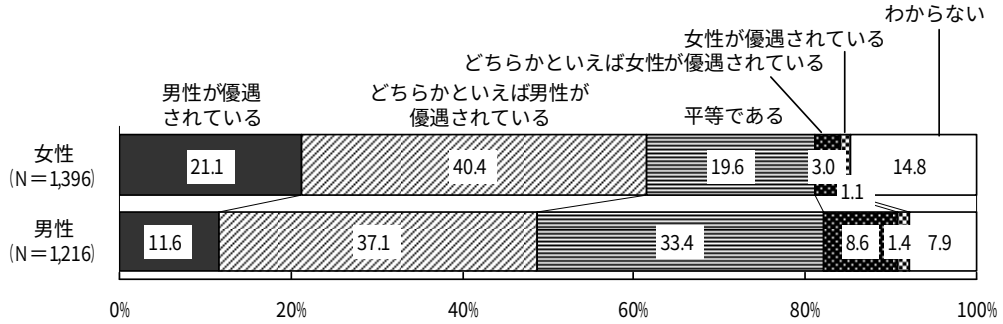
（2）職場の中で

『男性が優遇』は 55.5%で、平成 18 年度調査と比較して 16.2 ポイント低下しており、「平等である」は 25.9%で、7.9 ポイント高くなっている。



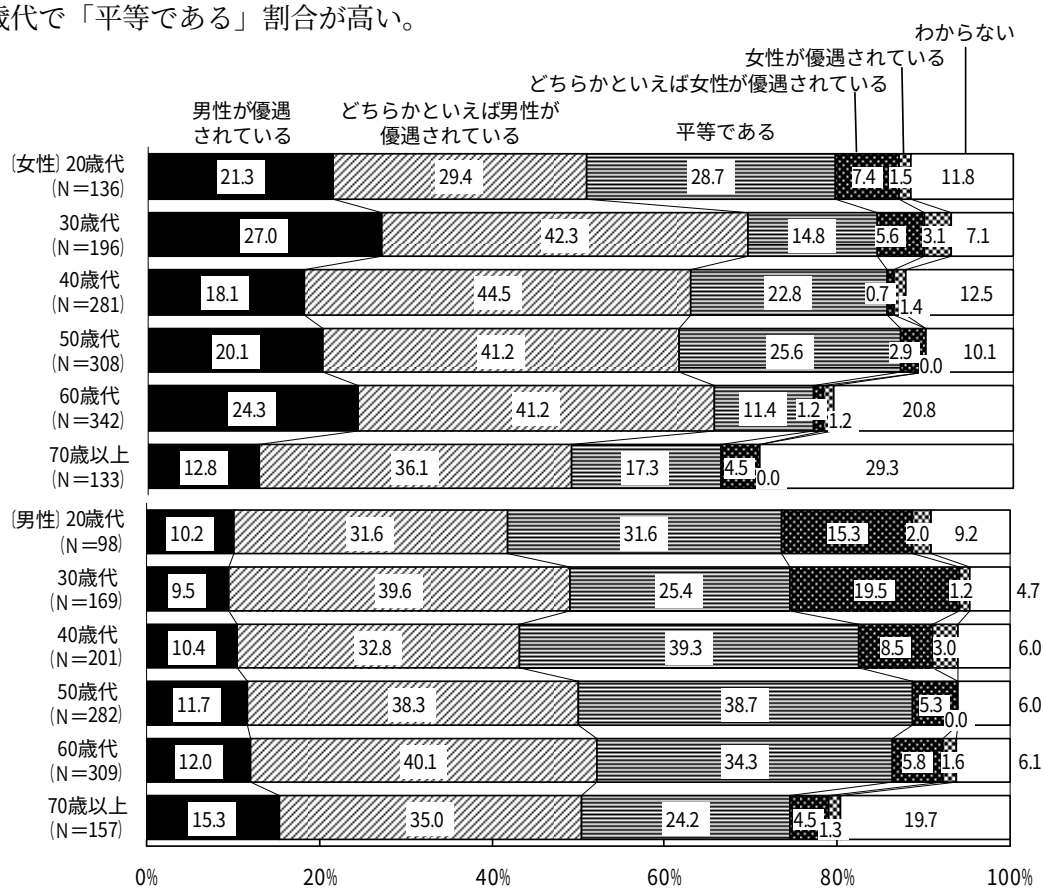
【性別】

『男性が優遇』は、女性が 61.5%で、男性（48.7%）を 12.8 ポイント上回っている。「平等である」は、女性が 19.6%で、男性（33.4%）より 13.8 ポイント高くなっている。



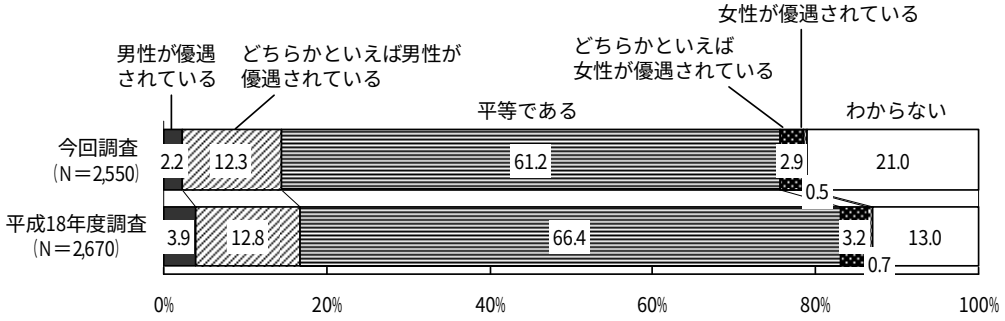
【性・年代別】

70 歳以上を除く年代では、『男性が優遇』は女性の方が男性よりも割合が高くなっている。「平等である」は、いずれの年代においても男性の方が高くなっている。また、女性では、他の年代に比べて 20 歳代で「平等である」割合が高い。



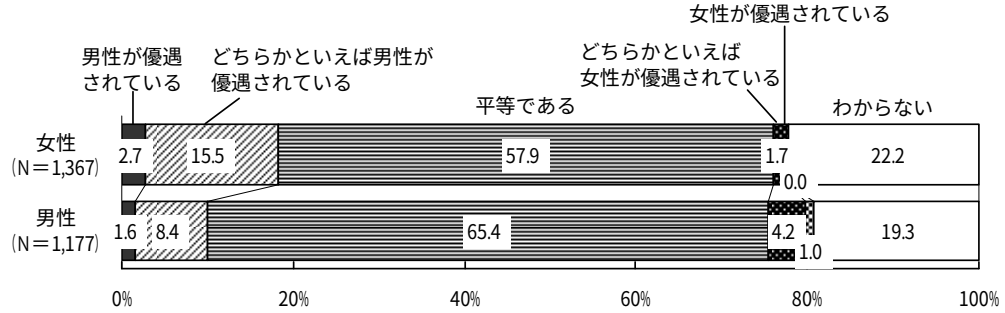
（3）学校教育の場で

「平等である」が 61.2%で最も多いが、平成 18 年度調査（66.4%）と比較すると 5.2 ポイント低下している。



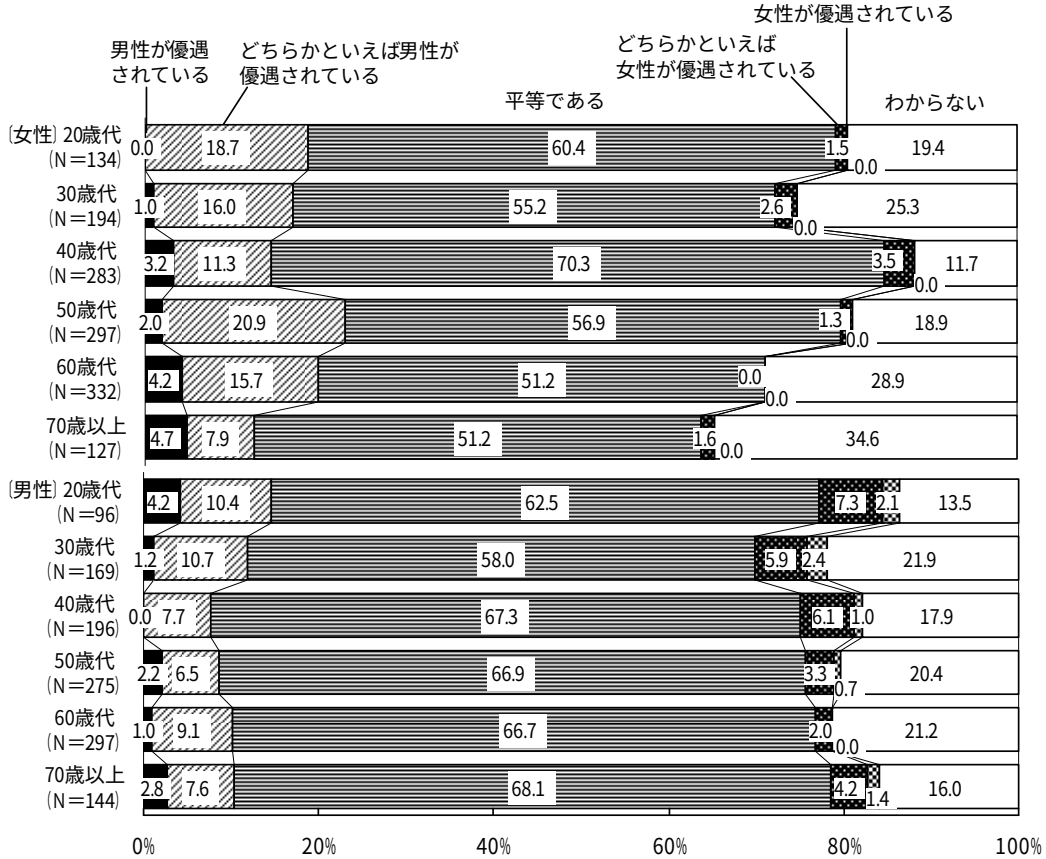
【性別】

男女ともに「平等である」が最も多く、『男性が優遇』は、女性が 18.2%で、男性（10.0%）を 8.2 ポイント上回っている。



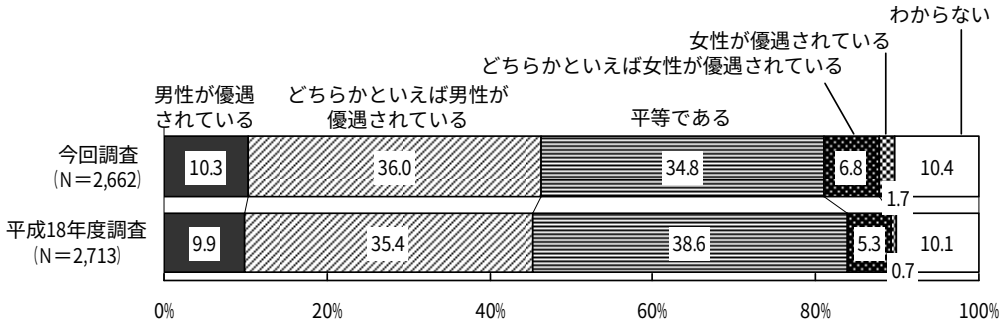
【性・年代別】

いずれの性・年代においても「平等である」が最も多く、『男性が優遇』は、50 歳代で男女間の差が最も大きくなっている。



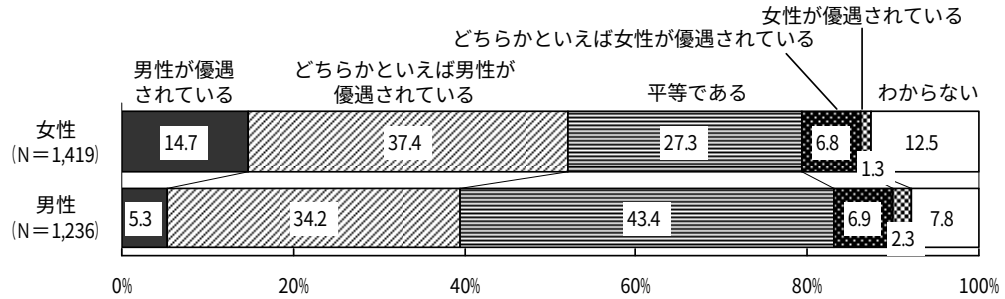
（4）地域活動の場で

『男性が優遇』は 46.3%で、平成 18 年度調査と比較して 1.0 ポイント高くなっており、「平等である」は 34.8%で、3.8 ポイント低くなっている。



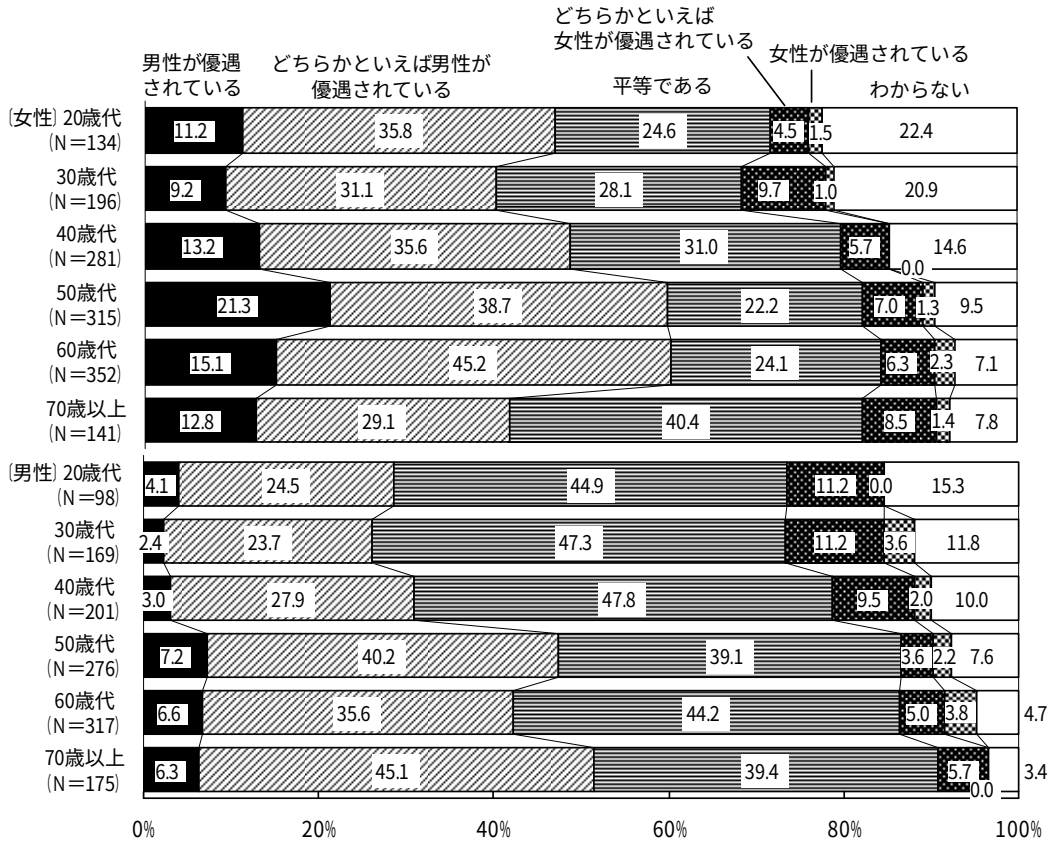
【性別】

『男性が優遇』は女性が 52.1%で、男性（39.5%）よりも 12.6 ポイント高くなっている。「平等である」は、女性が 27.3%で男性（43.4%）よりも 16.1 ポイント低くなっている。



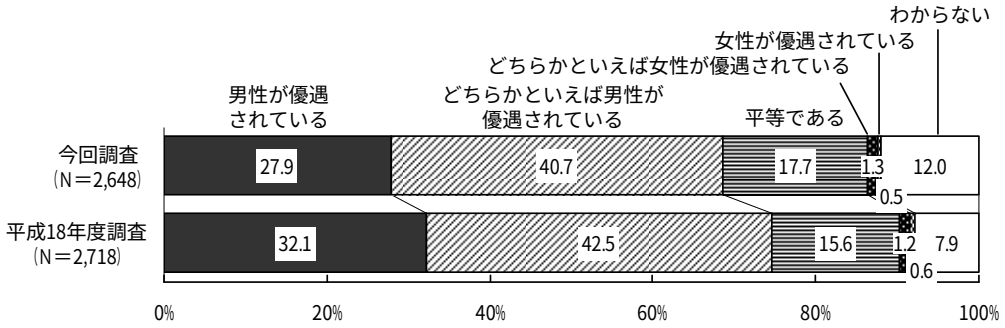
【性・年代別】

70 歳以上を除く年代では、『男性が優遇』は女性の方が男性よりも割合が高く、女性の 50～60 歳代では６割を超えている。



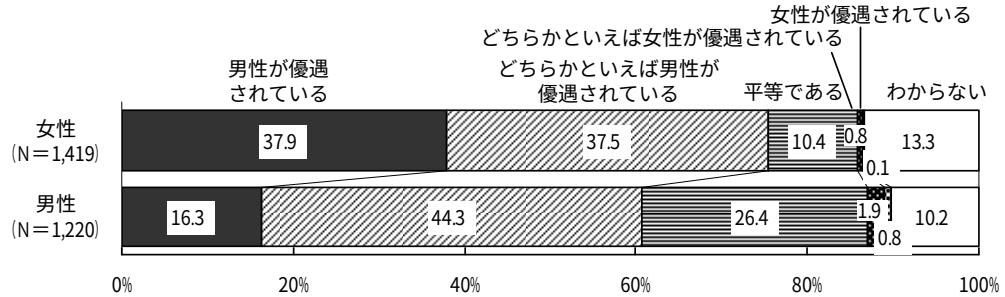
（５）政治の場で

『男性が優遇』は 68.6%で、平成 18 年度調査と比較して 6.0 ポイント低くなっており、「平等である」は 17.7%で、2.1 ポイント高くなっている。



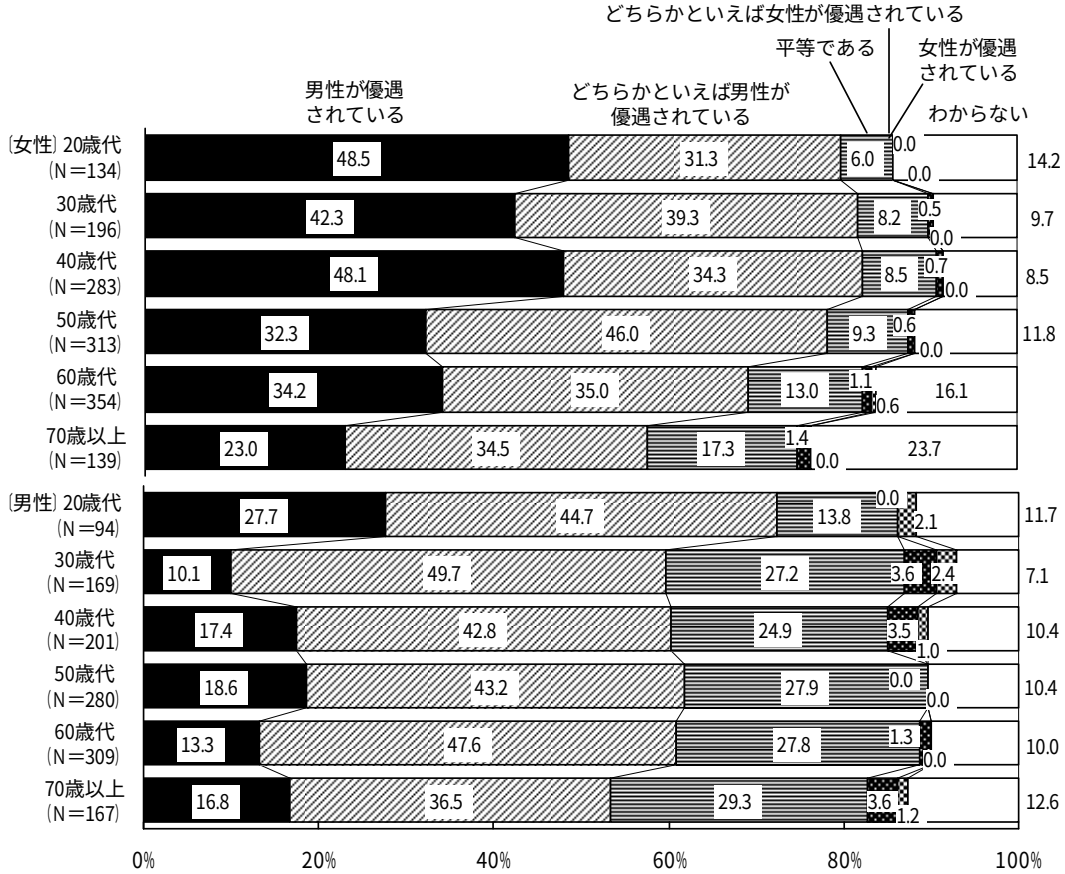
【性別】

『男性が優遇』は女性が 75.4%で、男性（60.6%）を 14.8 ポイント上回っている。「平等である」は、女性が 10.4%で男性（26.4%）よりも 16.0 ポイント低くなっている。



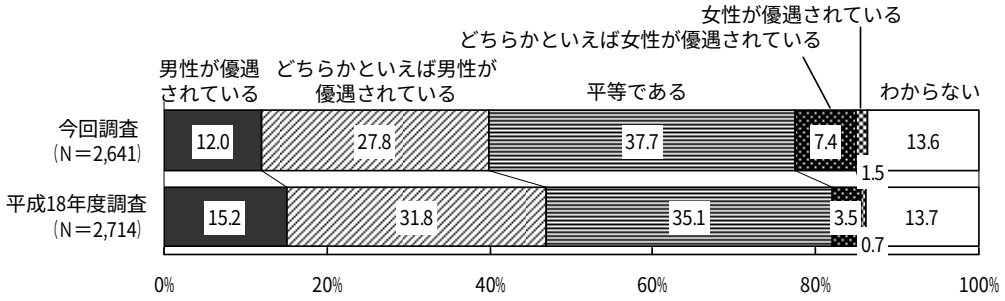
【性・年代別】

いずれの年代においても『男性が優遇』は女性が男性よりも割合が高くなっており、特に女性の 30～40 歳代では８割以上が『男性が優遇』としている。



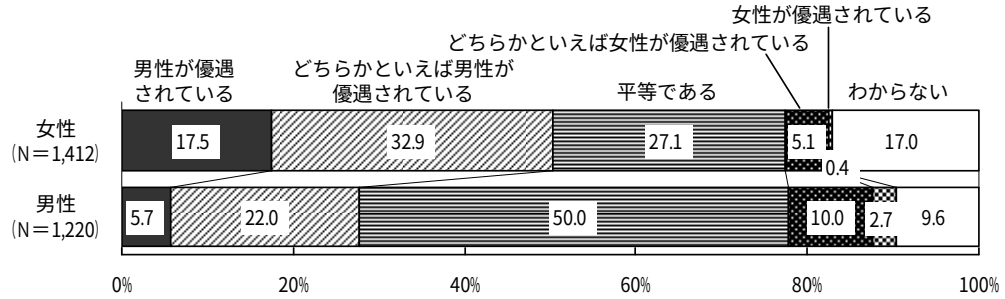
（6）法律や制度のうえで

『男性が優遇』は 39.8%で、平成 18 年度調査と比較して 7.2 ポイント低くなっており、「平等である」は 37.7%で、2.6 ポイント高くなっている。



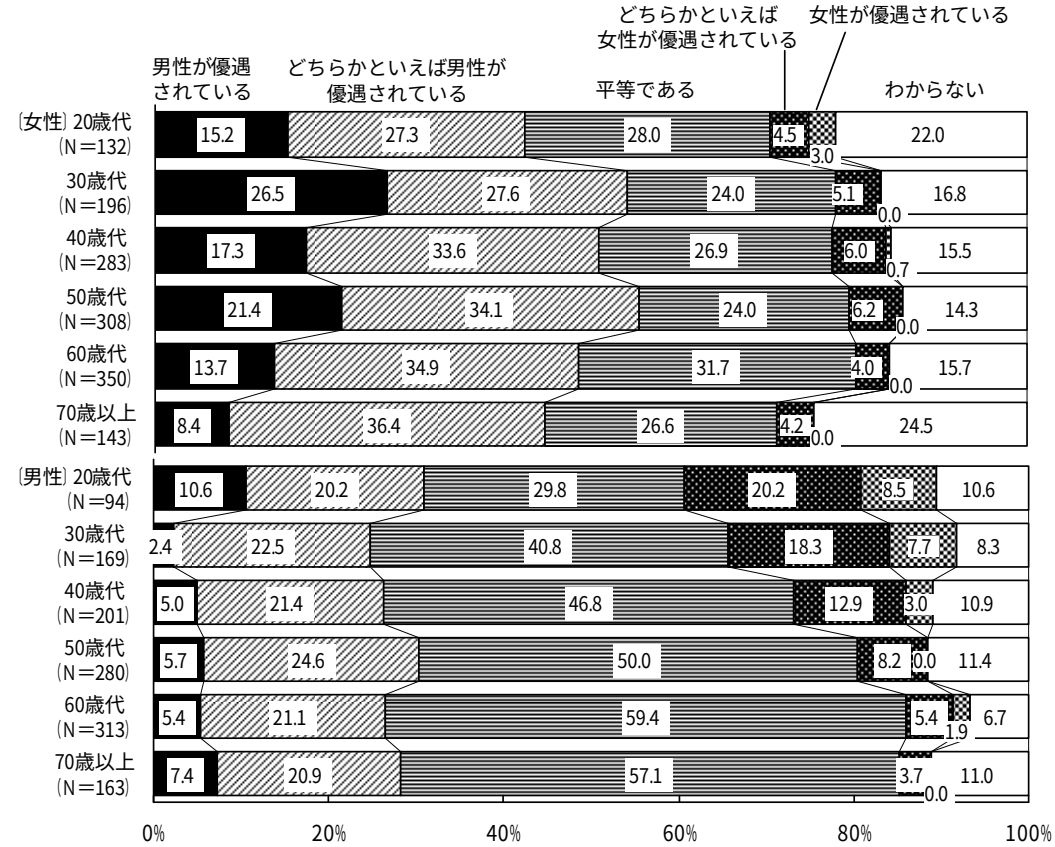
【性別】

『男性が優遇』は女性が 50.4%で、男性（27.7%）よりも 22.7 ポイント上回っている。「平等である」は女性が 27.1%で、男性（50.0%）より 22.9 ポイント低くなっている。



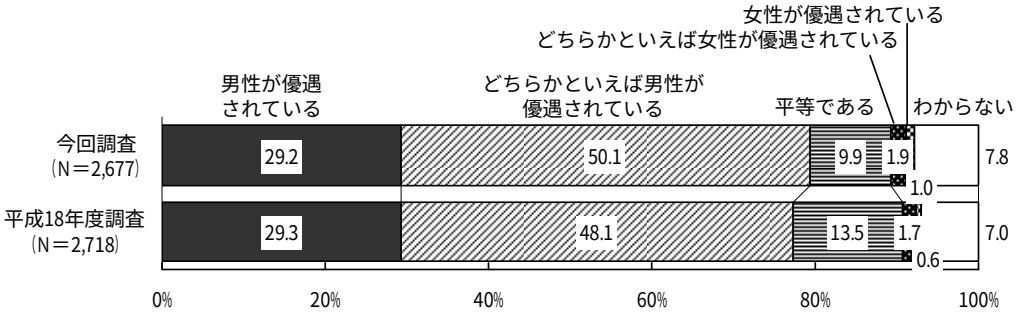
【性・年代別】

『男性が優遇』はいずれの年代においても、女性が男性を上回っており、30～50 歳代では５割を超えている。「平等である」は男性では 50 歳以上で５割を超えており、60 歳代で 59.4%と最も高くとなっている。



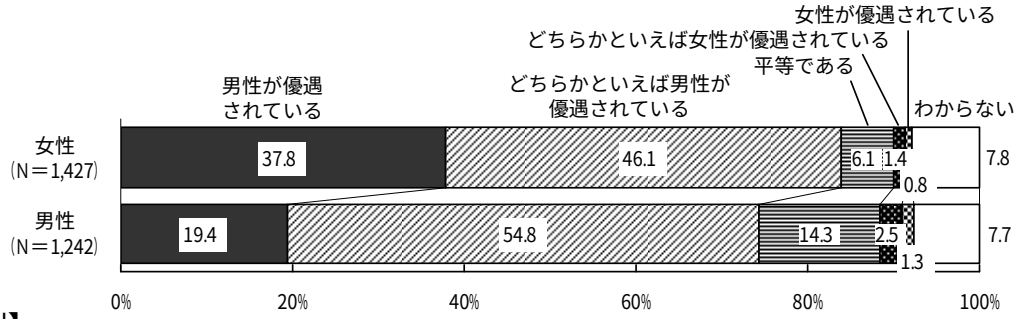
（7）社会通念・慣習・しきたりなど

『男性が優遇』は 79.3%で、平成 18 年度調査と比較して 1.9 ポイント高くなっており、「平等である」は 9.9%で、3.6 ポイント低くなっている



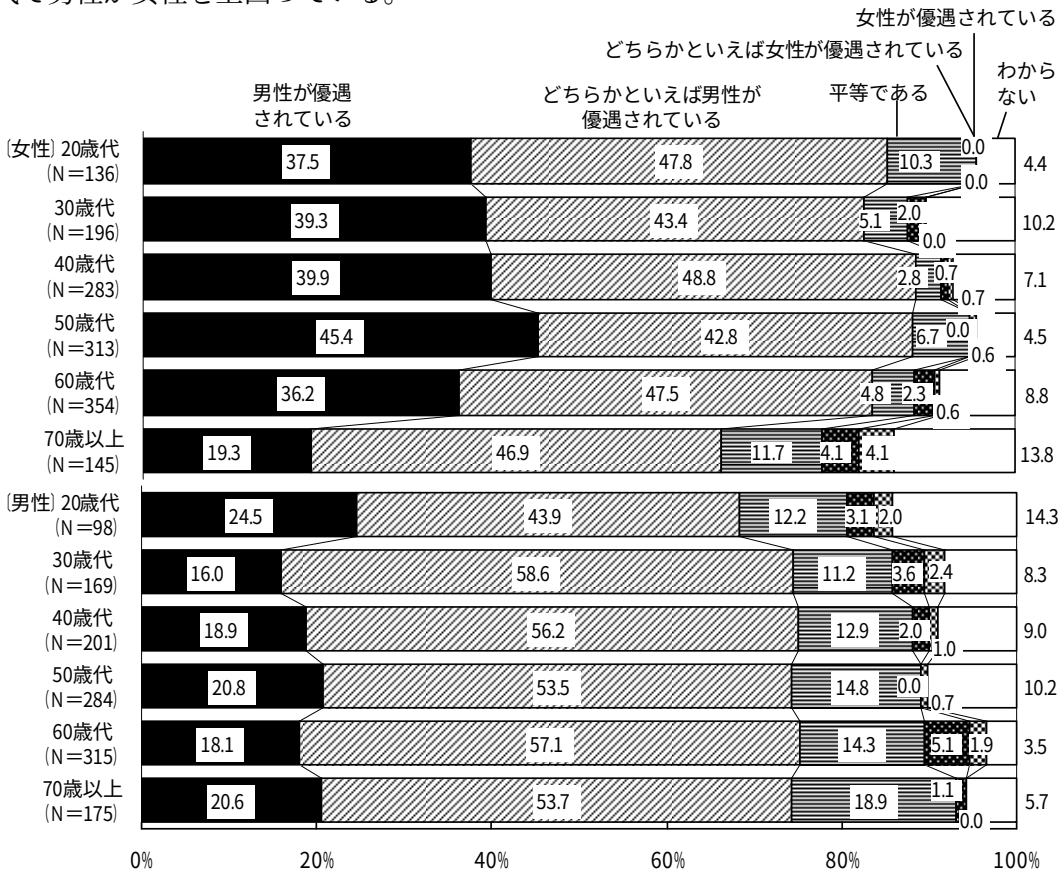
【性別】

『男性が優遇』は女性が 83.9%で、男性（74.2%）よりも 9.7 ポイント上回っている。「平等である」は女性が 6.1%で、男性（14.3%）より 8.2 ポイント低くなっている。



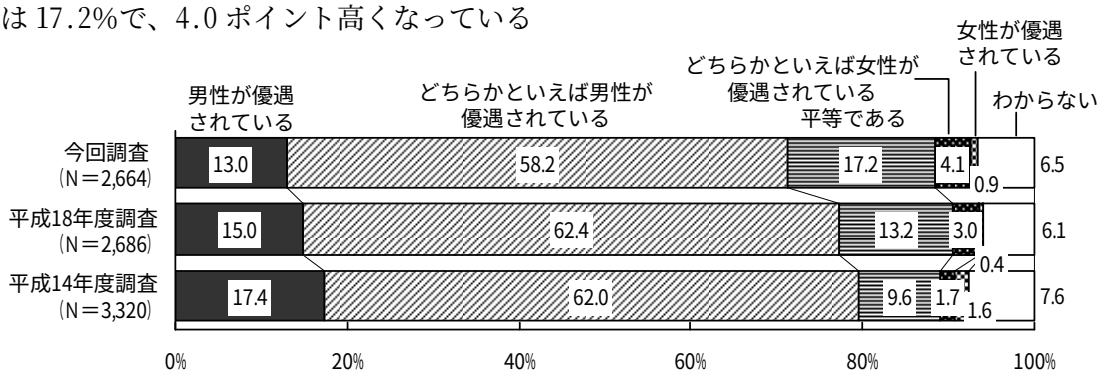
【性・年代別】

『男性が優遇』は、70 歳以上を除く年代で女性が男性を上回っており、８割以上となっている。また、20 歳代では、男性と女性の差が 16.9 ポイントと最も大きくなっている。「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っている。



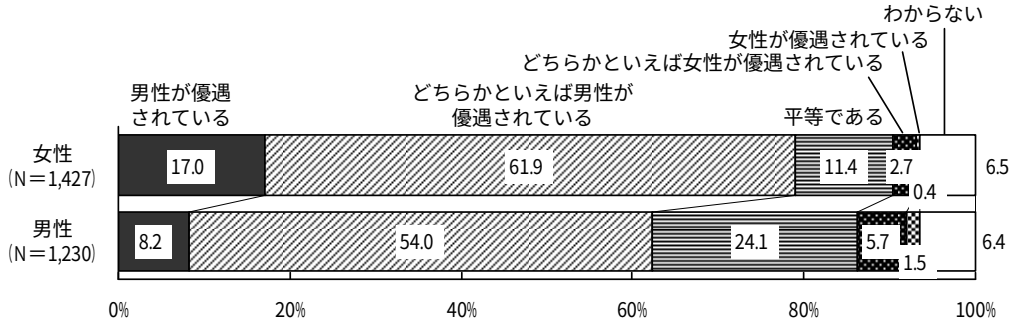
（8）社会全体でみて

『男性が優遇』は 71.2%で、平成 18 年度調査と比較して 6.2 ポイント低くなっており、「平等である」は 17.2%で、4.0 ポイント高くなっている



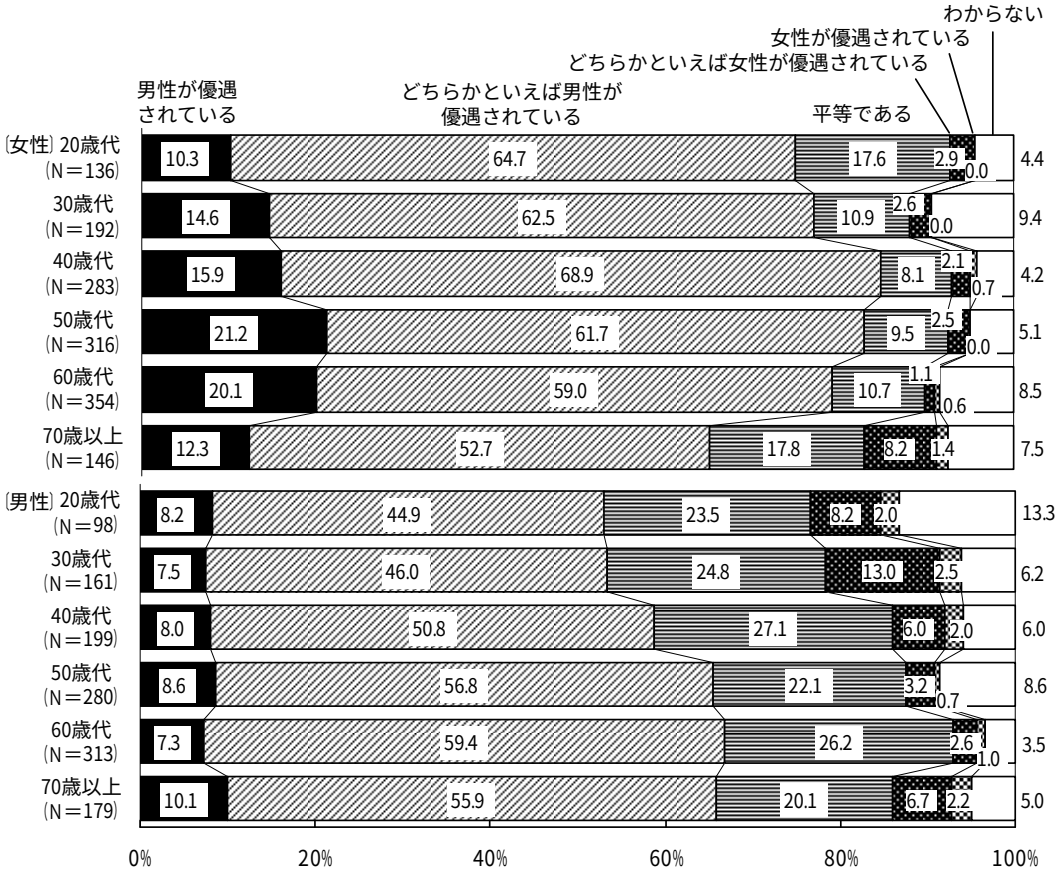
【性別】

『男性が優遇』は女性が 78.9%で、男性（62.2%）よりも 16.7 ポイント上回っている。「平等である」は女性が 11.4%で、男性（24.1%）より 12.7 ポイント低くなっている。



【性・年代別】

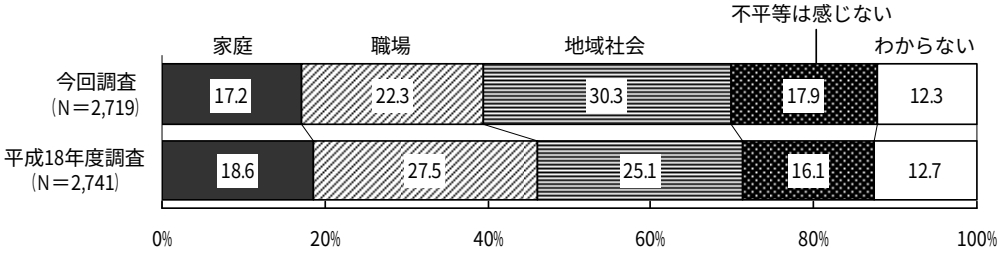
『男性が優遇』は、すべての年代で女性が男性を上回っており、40 歳代では 26.0 ポイントの差となっている。「平等である」はすべての年代で男性が女性を上回っている。



2 日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところ

● 「地域社会」や「職場」で不平等と感じることが多い

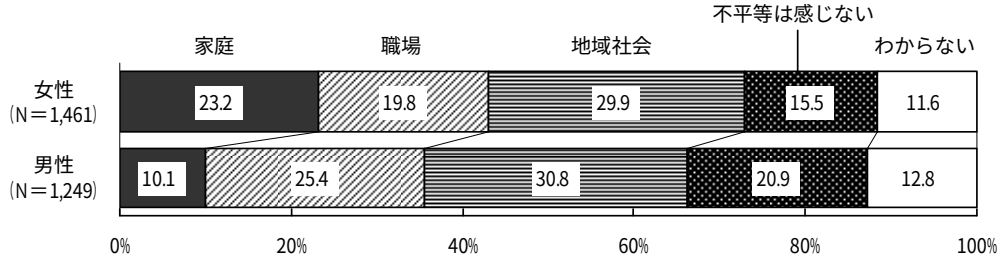
日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところは、「地域社会」が最も多く 30.3%となっている。平成 18 年度調査で最も割合の高かった「職場」は 5.2 ポイント低下し、「地域社会」が 5.2 ポイント増加している。



【性別】

● 男女とも「地域社会」で最も不平等を感じる

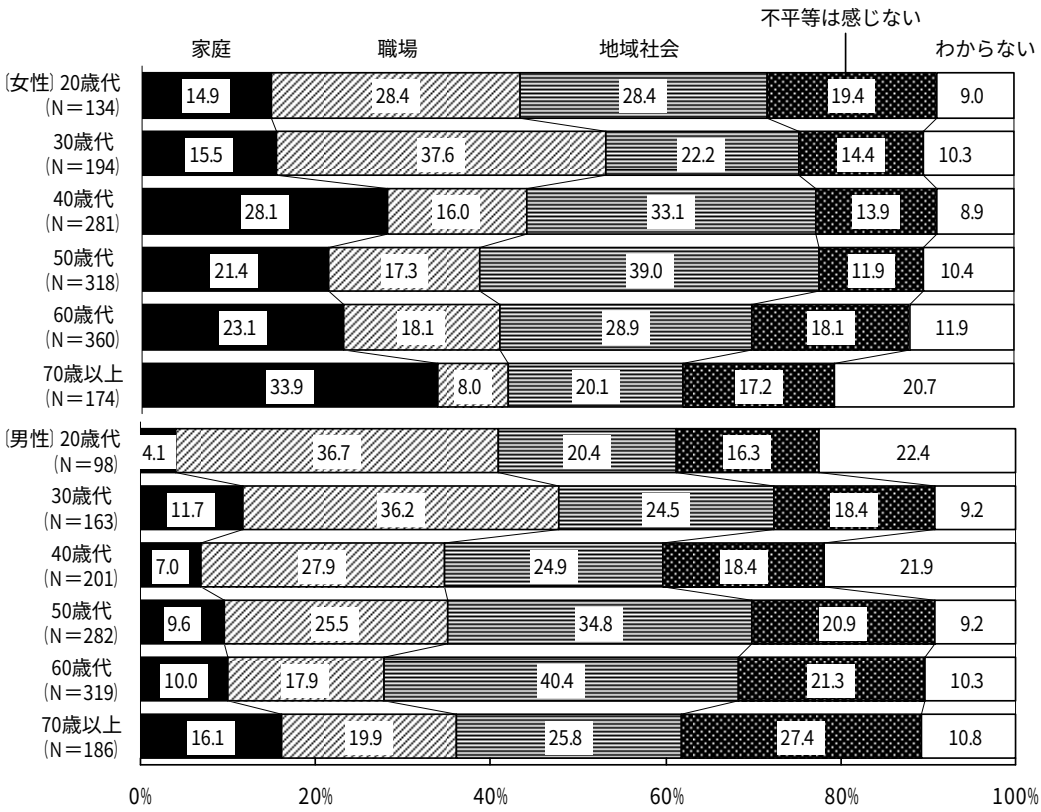
男女とも「地域社会」が最も多く、女性 29.9%、男性 30.8%となっている。次いで、女性は「家庭」が 23.2%で男性（10.1%）よりも 13.1 ポイント高くなっており、男性の２位は「職場」（25.4%）となっている。



【性・年代別】

● 「家庭」で不平等を感じる割合は、すべての年代で女性の方が高い

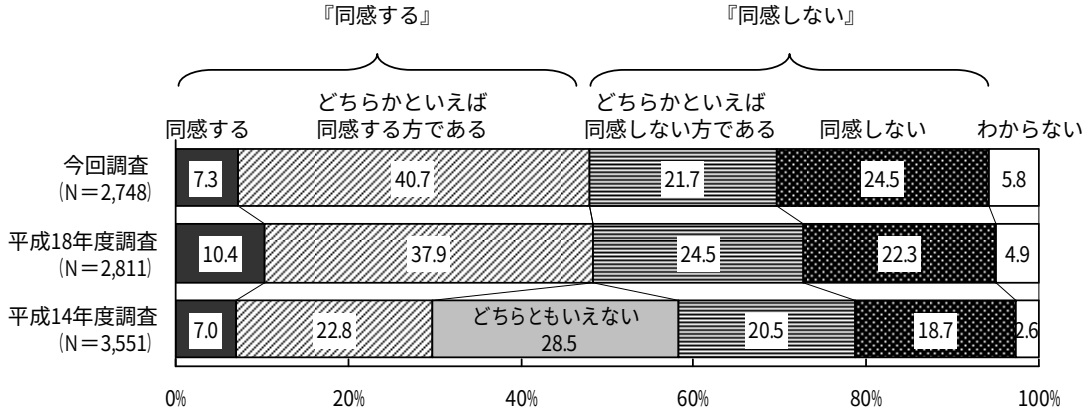
女性では、最も不平等を感じるところとして「家庭」をあげているものは、40 歳代と 70 歳以上に多く、「職場」は 30 歳代（37.6%）で割合が高くなっている。また、「地域社会」は 50 歳代（39.0%）の割合が高い。また、男性では 20～30 歳代で「職場」が多く、60 歳代で「地域社会」が多くなっている。



3 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方

● 『同感する』人はほぼ５割

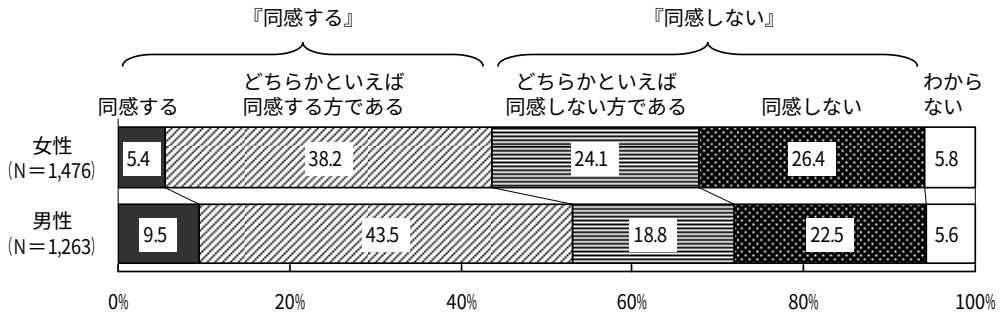
「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 48.0%で、『同感しない』（「どちらかといえば同感しない方である」と「同感しない」の合計）は 46.2%となっている。



【性別】

● **『同感する』割合は男性の方が高い**

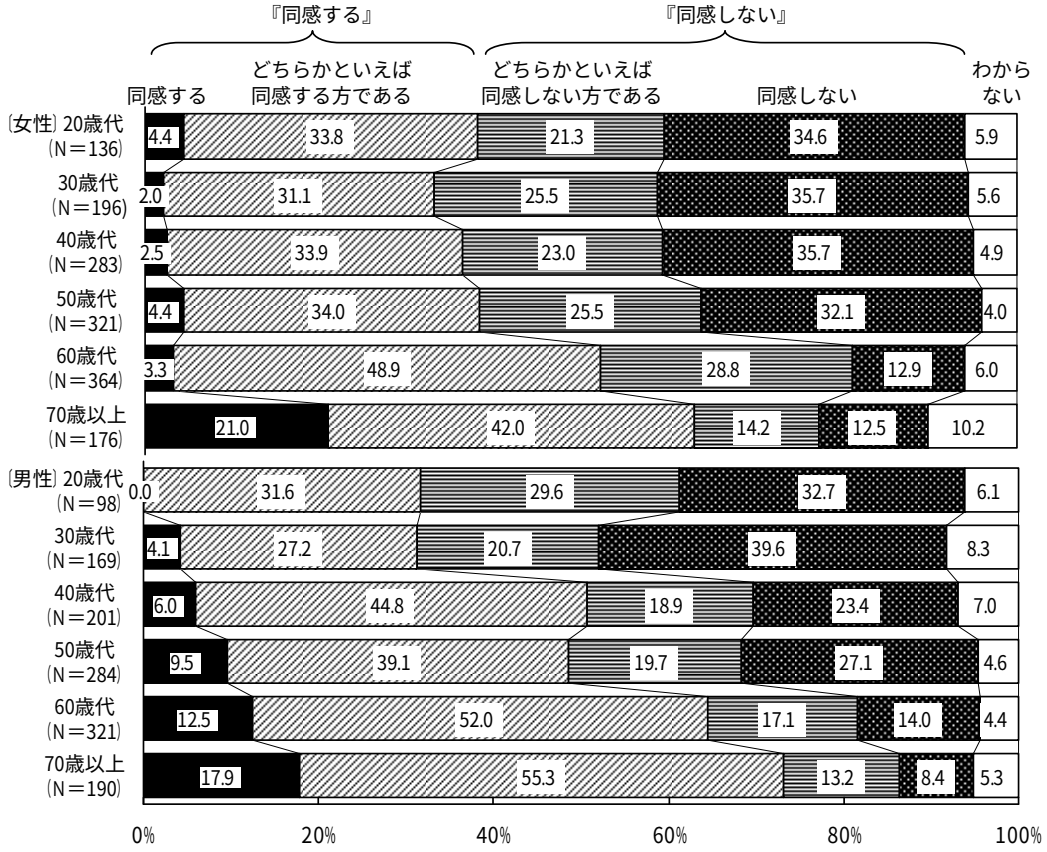
『同感する』は、男性が 53.0%で、女性（43.6%）を 9.4 ポイント上回っている。



【性・年代別】

● **男女とも年齢が高くなるほど『同感する』割合は高まる**

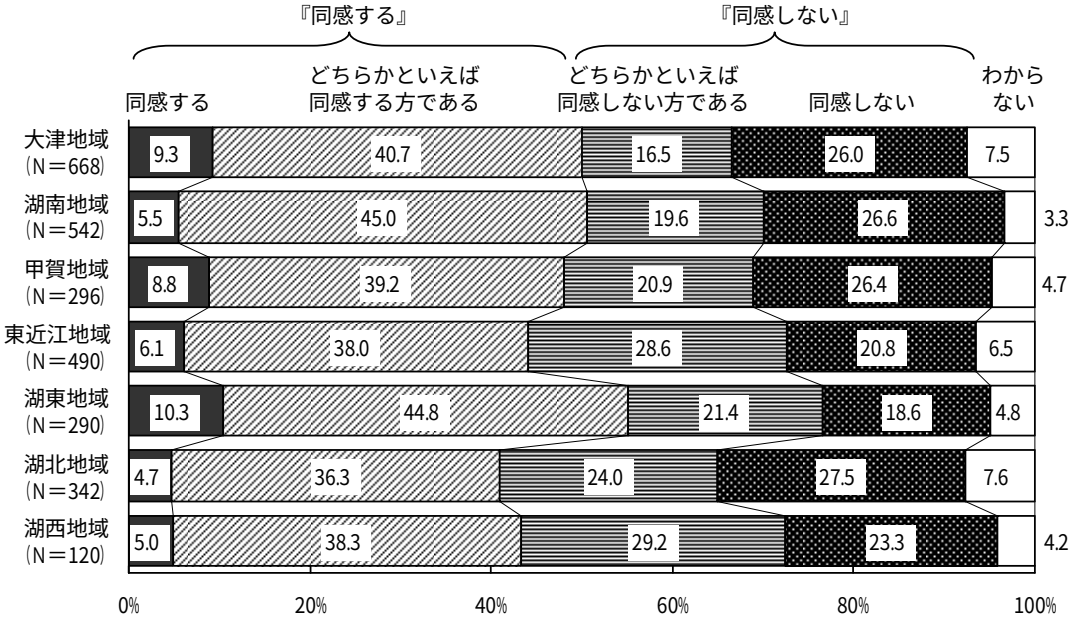
『同感する』は、男女ともに年齢とともに高くなる傾向にあり、男女とも 70 歳以上が最も高くなっている。また、『同感する』は、20～30 歳代で男性より女性の割合が高くなっているが、40 歳代以上の年代では、男性の割合が高くなっている。



【地域別】

● **『同感する』割合は「湖東地域」で高い**

『同感する』は、「湖東地域」で 55.1%と最も高く、「湖南地域」、「大津地域」で５割を超える。「湖西地域」、「湖北地域」、「東近江地域」では、『同感しない』が『同感する』よりも高くなっている。



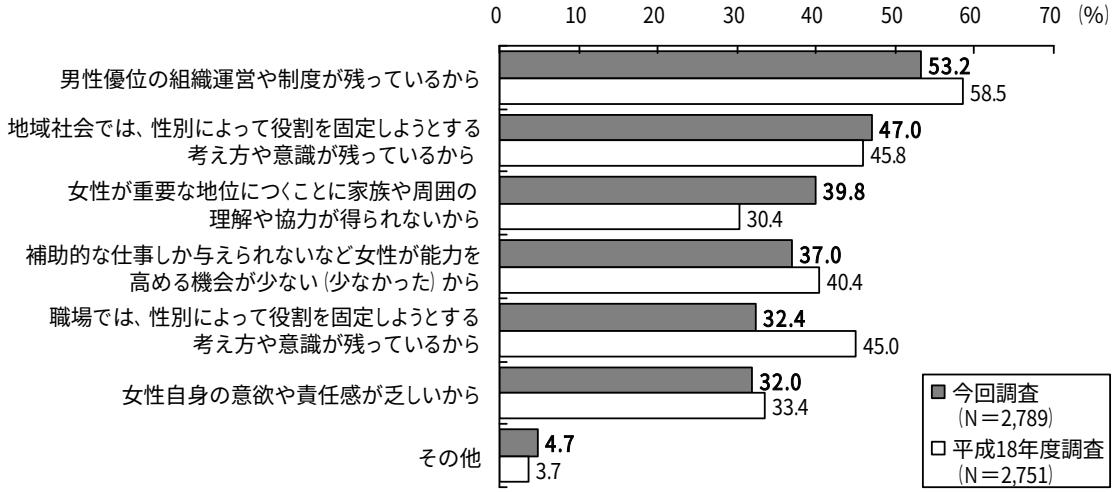
4 重要な方針を決定する地位につく女性が少ない原因

（あてはまるものをすべて選択）

● **「男性優位の組織運営や制度が残っているから」が５割を超える**

重要な方針を決定する地位につく女性が少ない原因は、「男性優位の組織運営や制度が残っているから」が 53.2%と最も多く、次いで「地域社会では、性別によって役割を固定しようとする考え方や意識が残っているから」（47.0%）、「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」（39.8%）の順となっている。

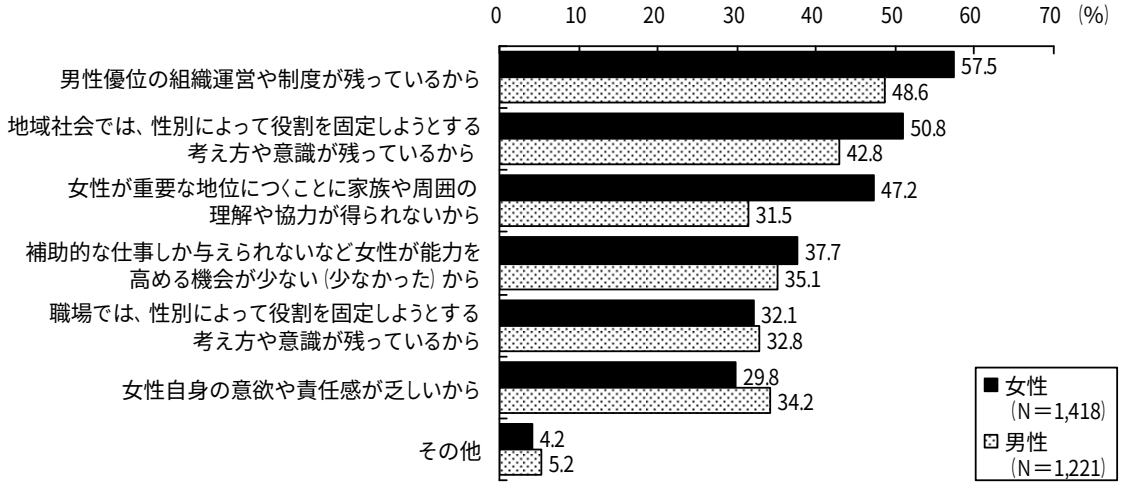
平成 18 年度調査と比べると、「職場では、性別によって役割を固定しようとする考え方や意識が残っているから」は 12.6 ポイント低下し、「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」は 9.4 ポイント増えている。



【性別】

● **「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」で男女間の意識に差**

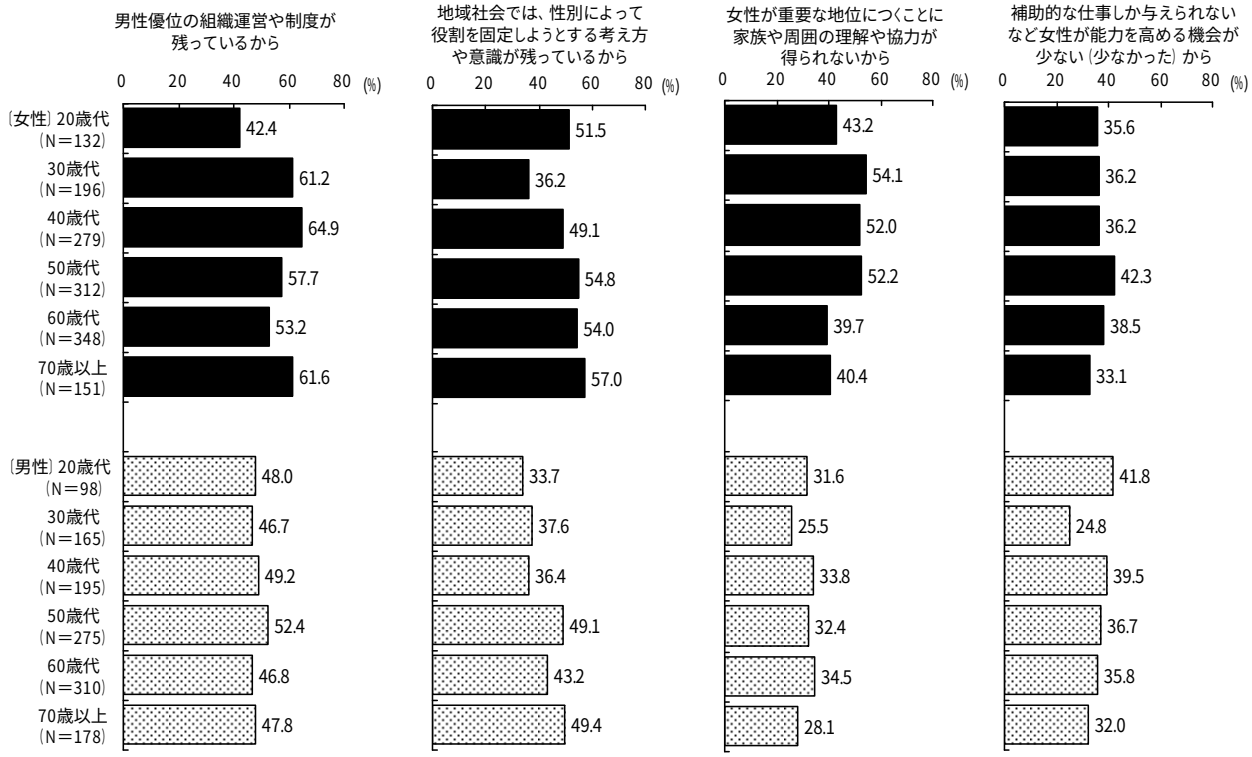
男女とも「男性優位の組織運営や制度が残っているから」が最も多く、次いで「地域社会では、性別によって役割を固定しようとする考え方や意識が残っているから」の順となっている。「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」では、女性が男性を 15.7 ポイント上回り、男女間の意識の差が大きい。

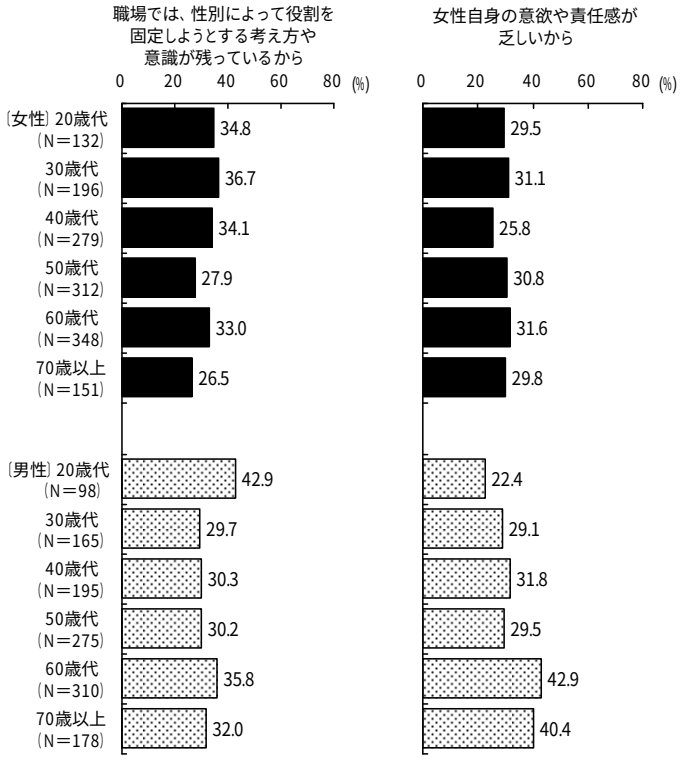


【性・年代別】

●**「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」で男女間に差**

「女性が重要な地位につくことに家族や周囲の理解や協力が得られないから」は、すべての年代において女性が男性を上回っており、女性の 30～50 歳代で５割を超えている。

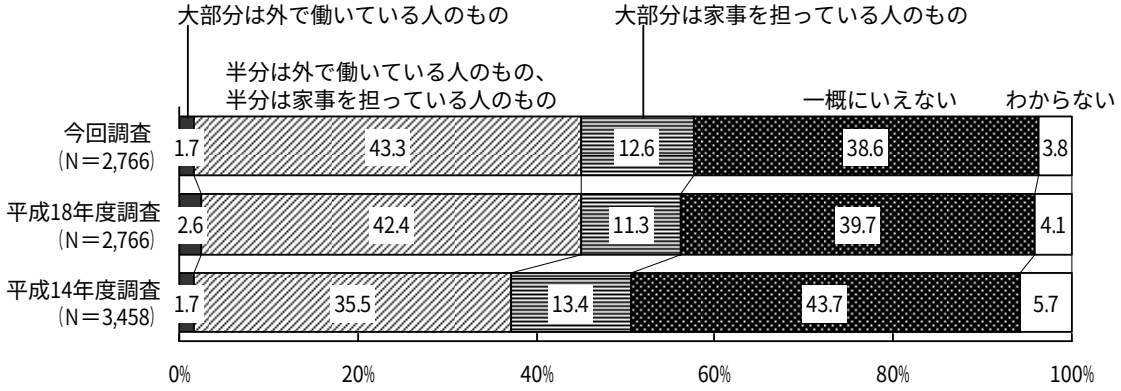




5 外から得られた収入についての考え方

● 「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」が 4 割を超える

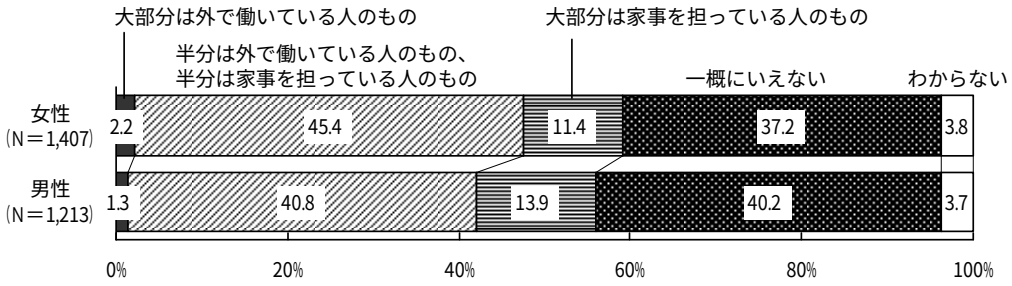
夫婦の一方が働き、他方が育児や介護などの家事に専任している世帯の場合の外から得られた収入についての考え方をみると、「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」が 43.3%で最も多く、平成 18 年度調査と比べると 0.9 ポイント、平成 14 年度調査と比べると 7.8 ポイント高くなっている。



【性別】

● **男女とも「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」が多い**

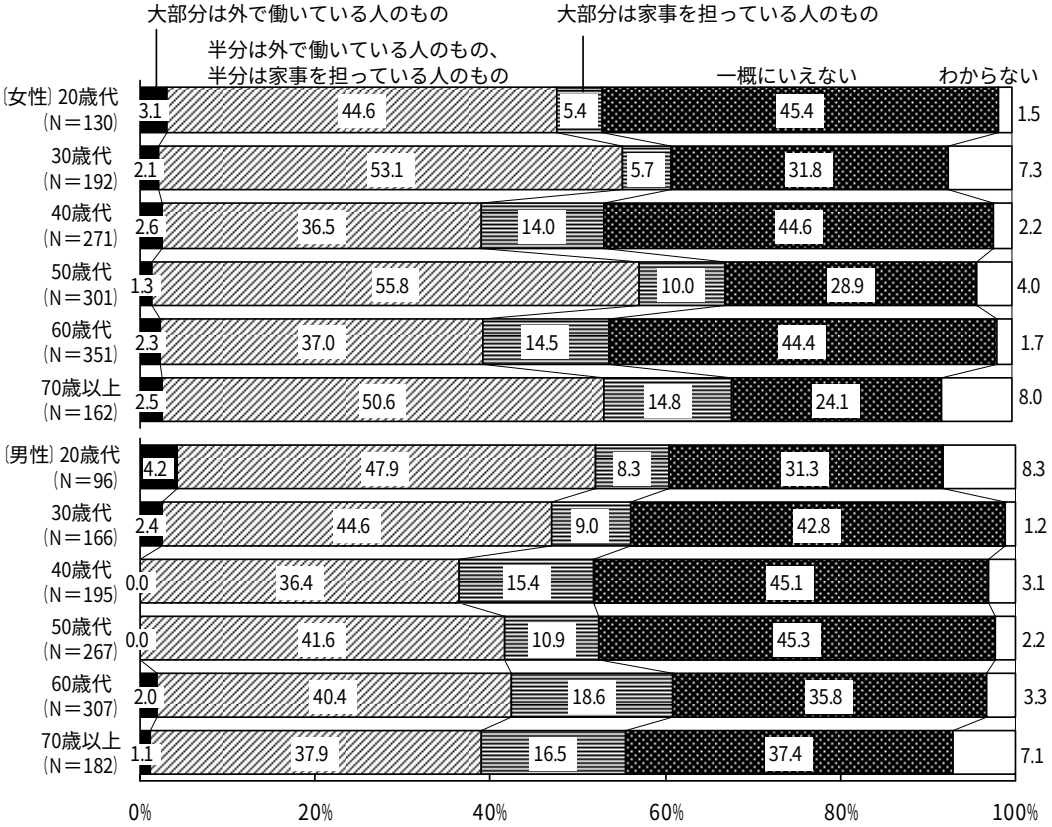
男女とも「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」が最も多く、女性は 45.4%で男性（40.8%）を 4.6 ポイント上回っている。



【性・年代別】

● **「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」は女性 30 歳代、50 歳代、70 歳以上で５割を超える**

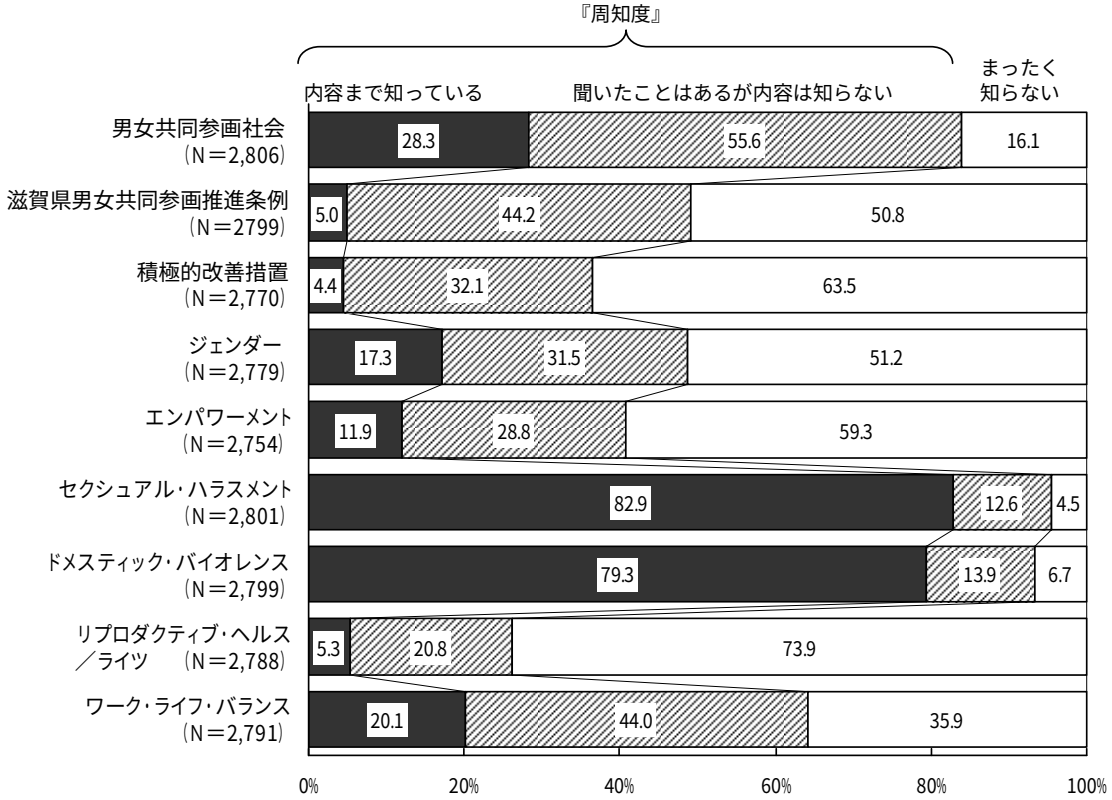
「半分は外で働いている人のもの、半分は家事を担っている人のもの」は女性の 30 歳代、50 歳代、70 歳以上で５割を超えている。「大部分は家事を担っている人のもの」は、女性は 70 歳以上、男性は 60 歳代で最も高くなっている。



6 制度や用語の周知度

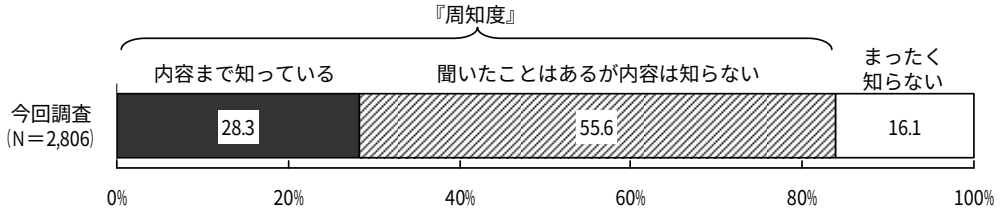
● 「セクシュアル・ハラスメント」、「ドメスティック・バイオレンス」は約８割が「内容まで知っている」

「セクシュアル・ハラスメント」は 82.9%、「ドメスティック・バイオレンス」は 79.3%が「内容まで知っている」と回答しており、『周知度』(「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計)も９割を超えている。逆に、周知度が最も低いのは、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の 26.1%となっている。



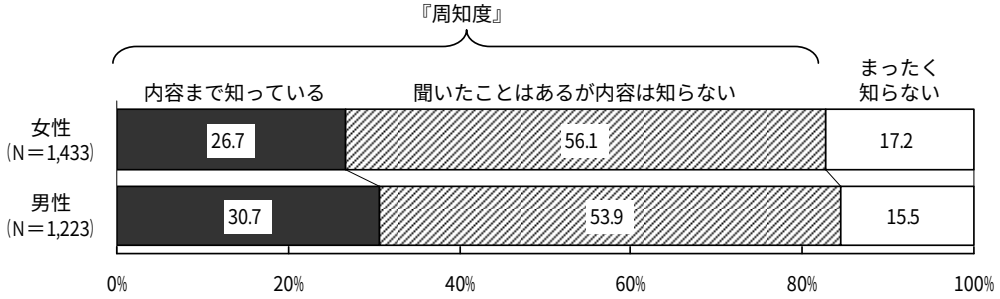
（1）男女共同参画社会

「男女共同参画社会」の『周知度』は 83.9%で、「内容まで知っている」は 28.3%であった。



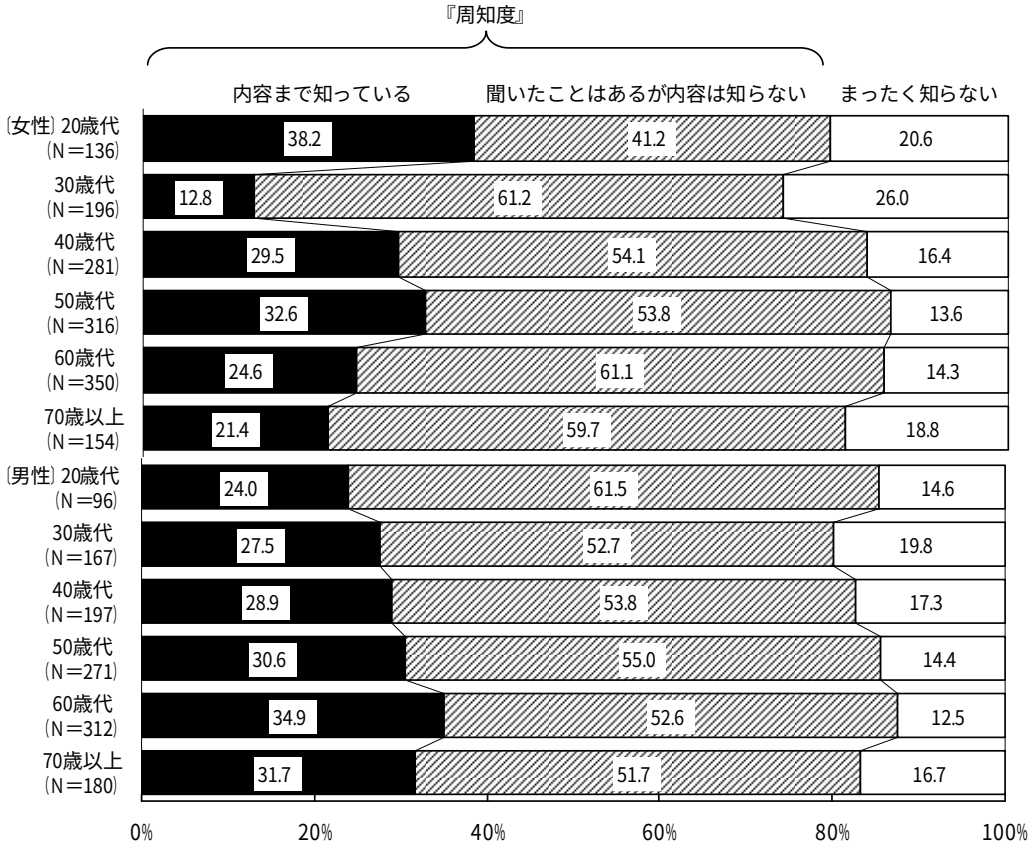
【性別】

『周知度』は、女性 82.8%、男性 84.6%で、男性の方がやや高くなっている。



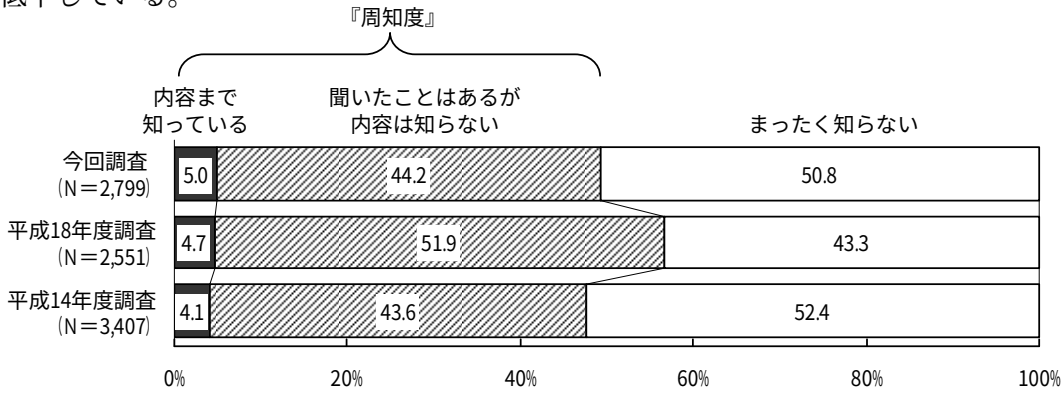
【性・年代別】

「内容まで知っている」は、女性の 20 歳代で最も高く４割近くとなっているが、女性の 30 歳代では 12.8%と最も低くなっている。



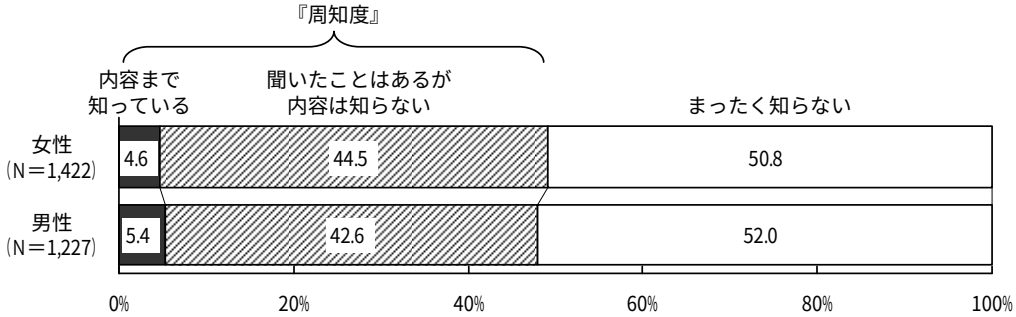
（2）滋賀県男女共同参画推進条例

「滋賀県男女共同参画推進条例」の『周知度』は 49.2%で、平成 18 年度調査と比べると 7.5 ポイント低下している。



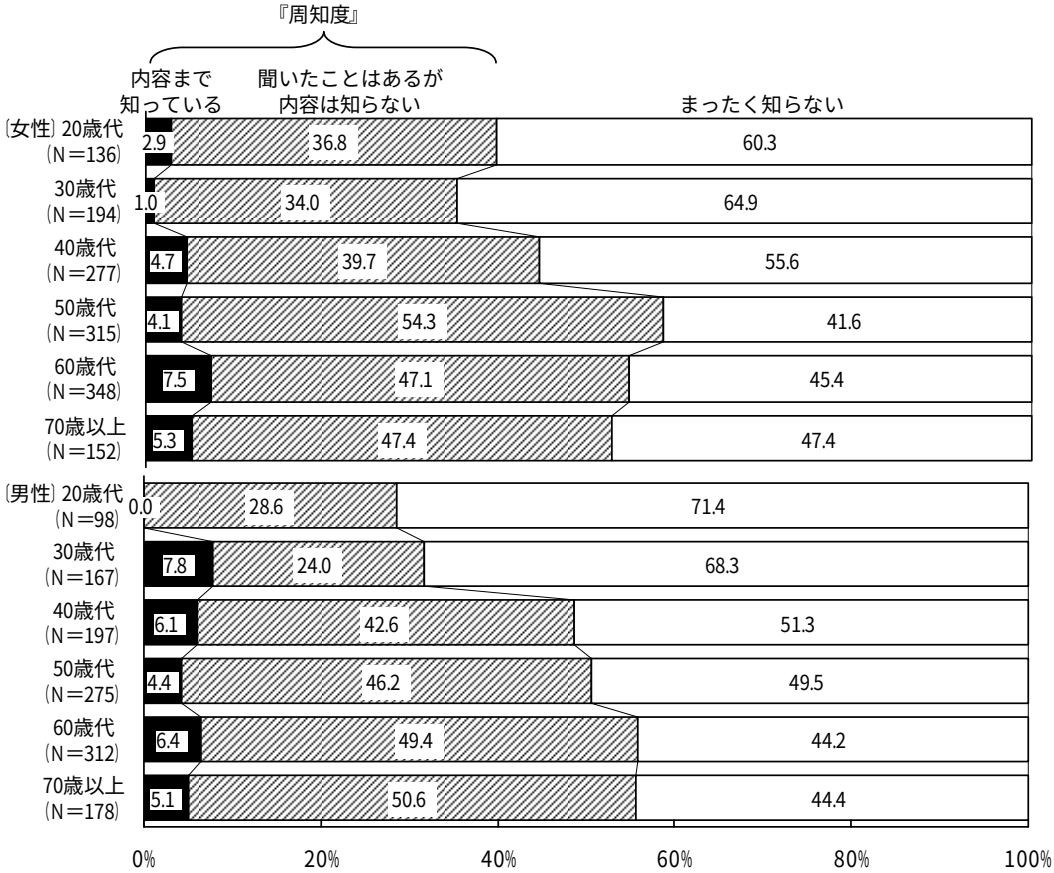
【性別】

『周知度』は、男女ともほぼ５割となっている。



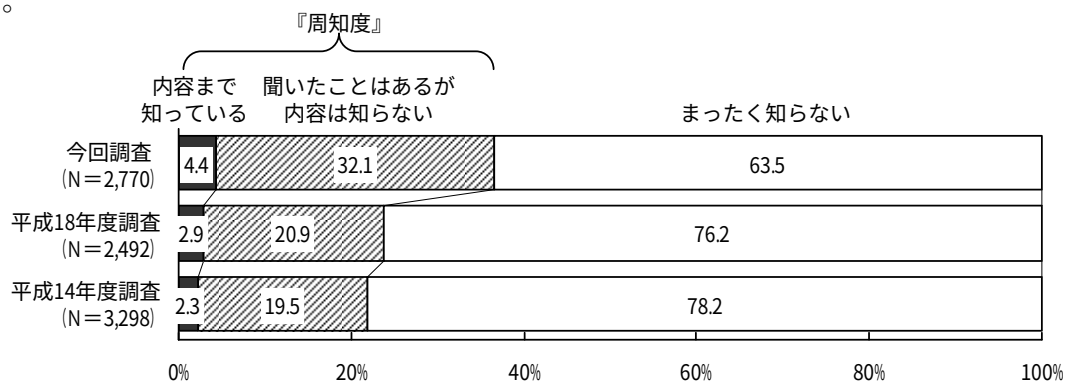
【性・年代別】

『周知度』は、女性の 50 歳代で 54.3%と最も高くなっている。一方、男性では年代が高くなるほど、『周知度』が高くなる傾向がみられる。



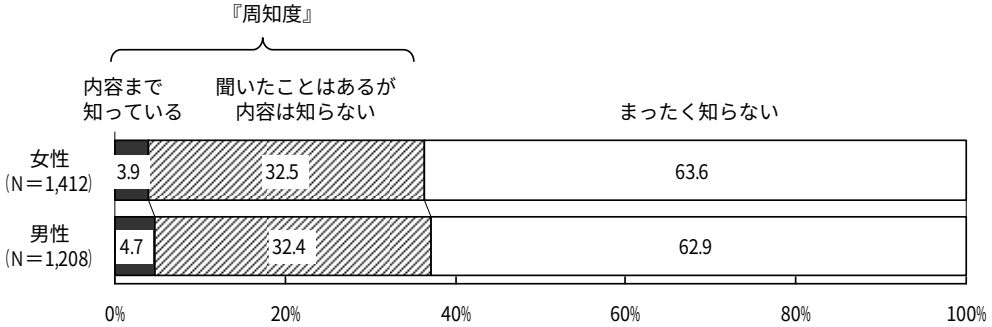
（3）積極的改善措置（ポジティブ・アクション）

「積極的改善措置」の『周知度』は 36.5%で、平成 18 年度調査と比べると 12.7 ポイント上昇している。



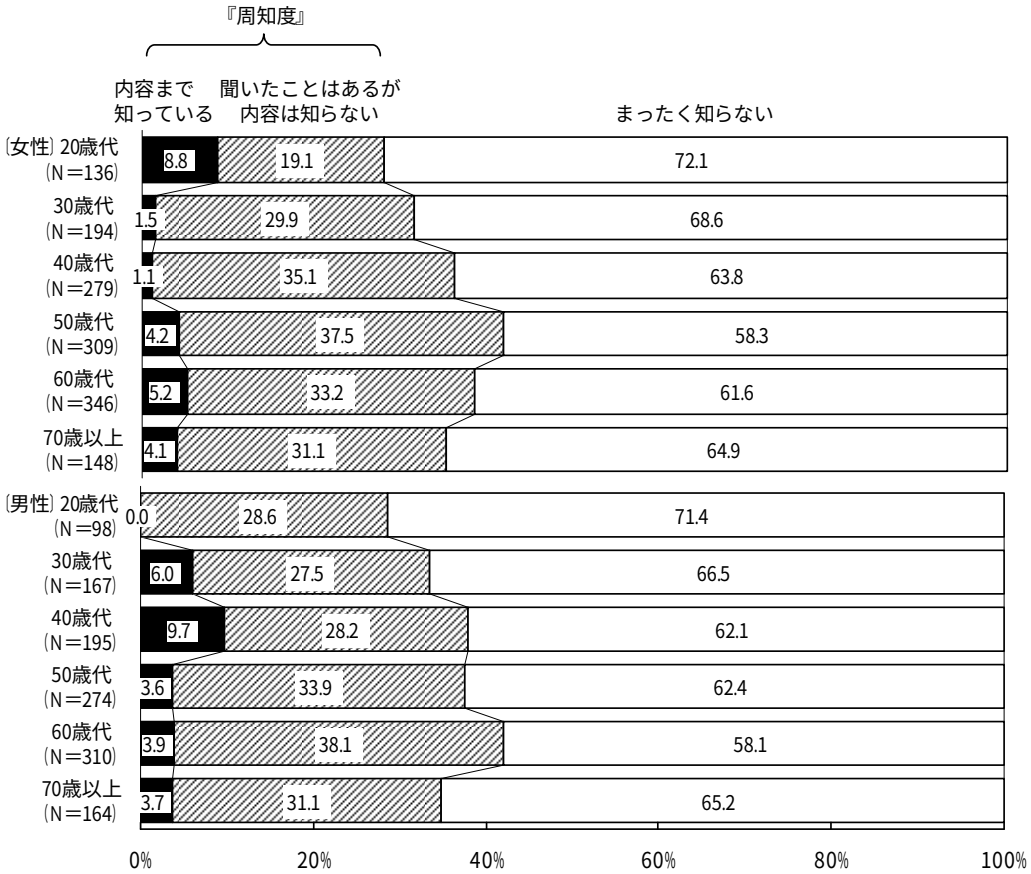
【性別】

『周知度』は、女性 36.4%、男性 37.1%で男女間に大きな差はみられない。



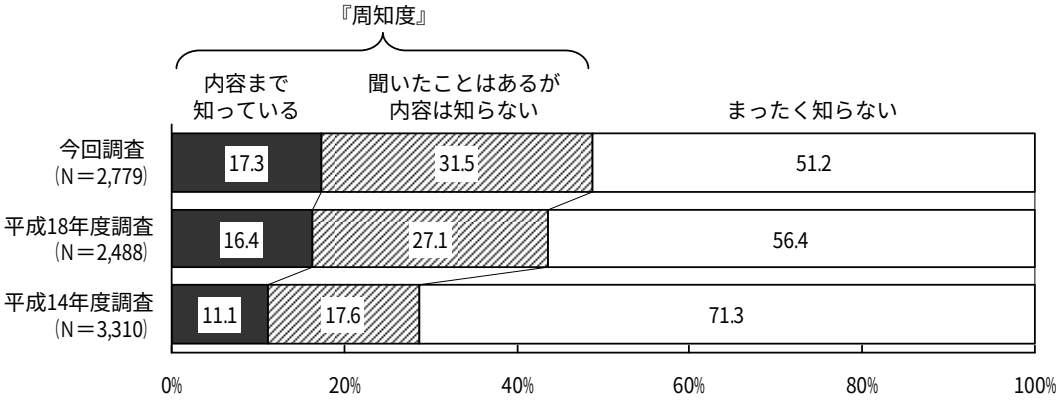
【性・年代別】

『周知度』は、女性は 50 歳代が 41.7%、男性は 60 歳代が 42.0%で最も高くなっている。



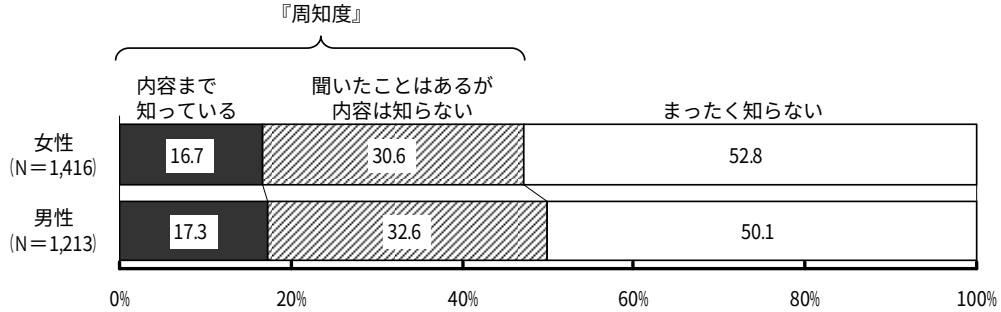
（4）ジェンダー（社会的性別）

「ジェンダー」の『周知度』は 48.8%で、平成 18 年度調査と比べると 5.3 ポイント上昇している。



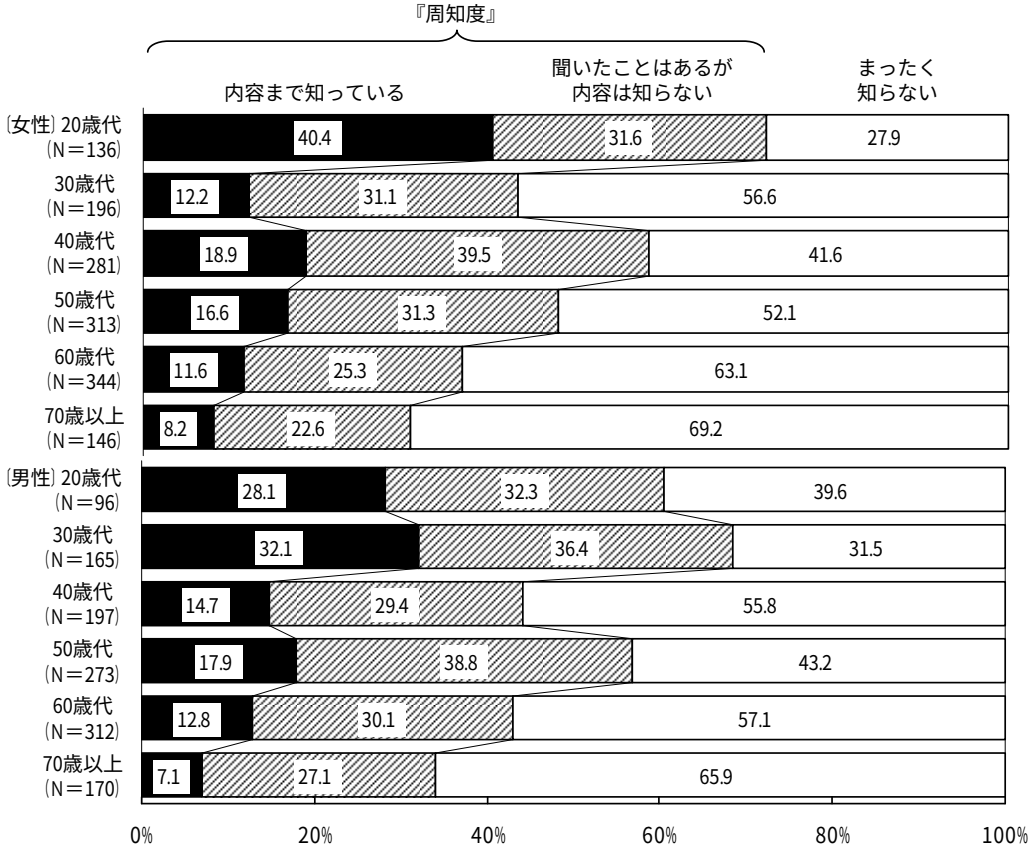
【性別】

『周知度』は、女性 47.3%、男性 49.9%で男性が 2.6 ポイント上回っている。



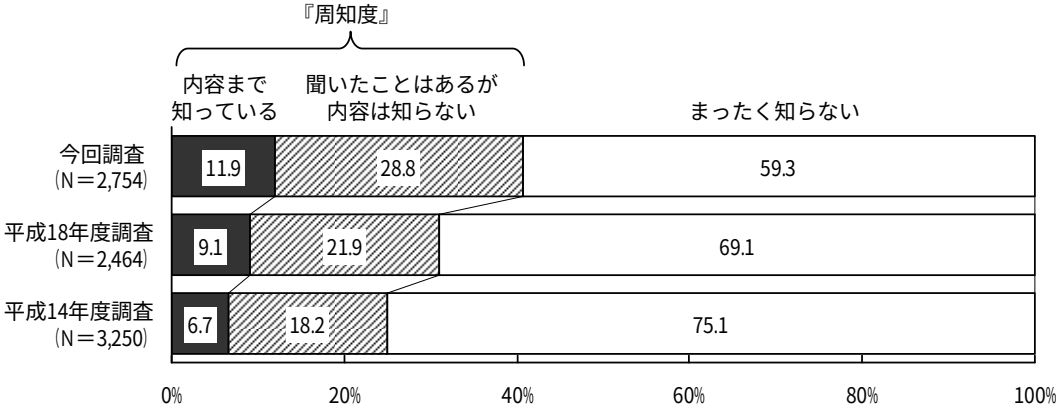
【性・年代別】

「内容まで知っている」は女性の 20 歳代で最も高く 40.4%となっている。次いで、30 歳代男性 32.1%、20 歳代男性 28.1%と続いている。



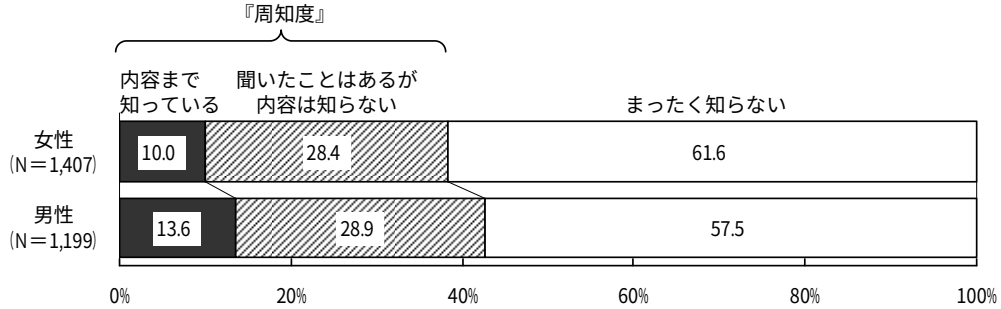
（5）エンパワーメント（力をつけ、発揮すること）

「エンパワーメント」の『周知度』は 40.7%で、平成 18 年度調査（31.0%）を 9.7 ポイント上回っている。



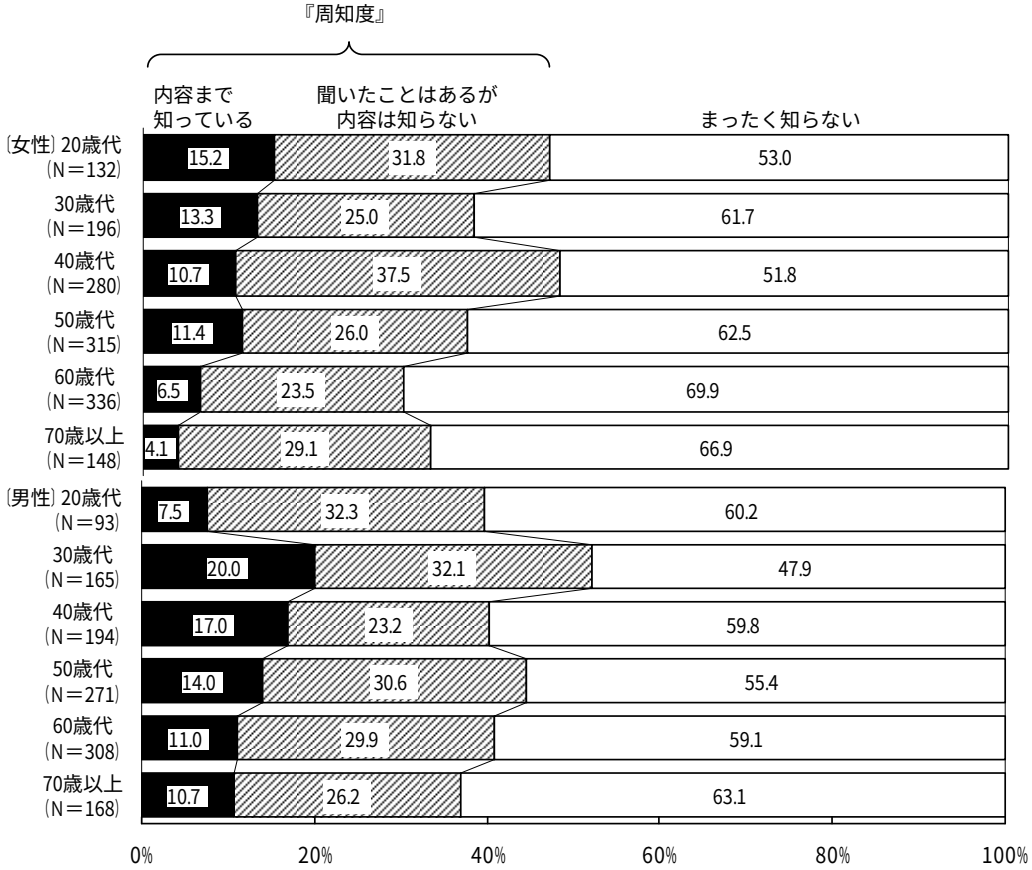
【性別】

『周知度』は女性 38.4%、男性 42.5%で、男性の方が 4.1 ポイント上回っている。



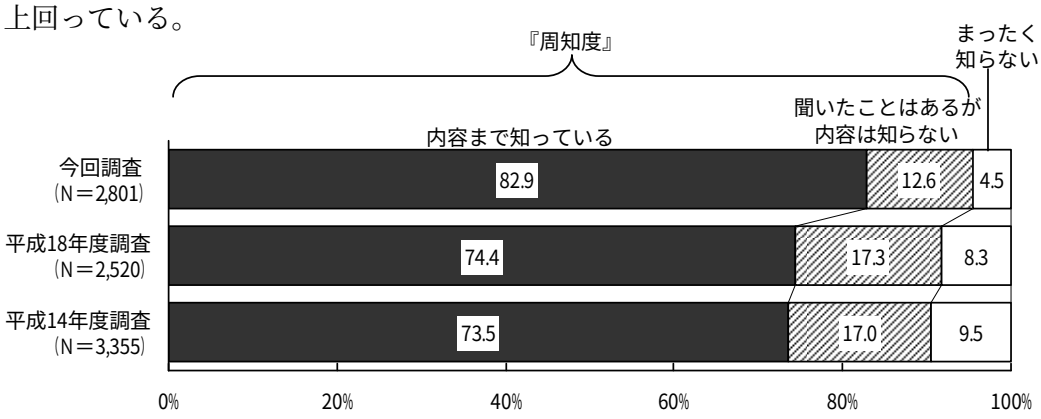
【性・年代別】

「内容まで知っている」は男性の 30 歳代で最も高く 20.0%となっている。



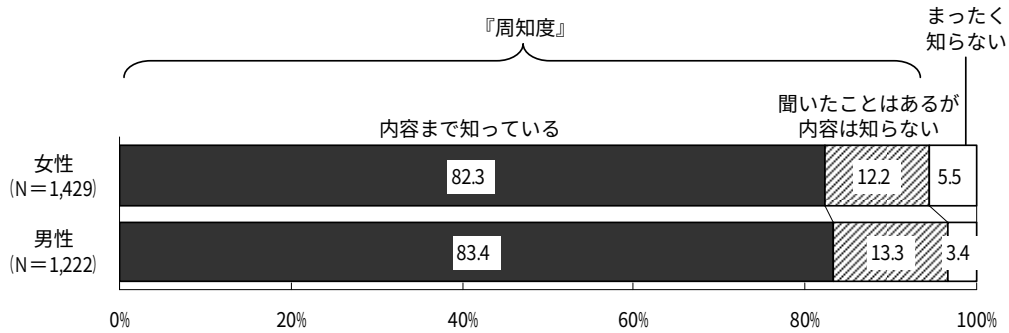
（6）セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）

「セクシュアル・ハラスメント」の『周知度』は 95.5%で、平成 18 年度調査（91.7%）を 3.8 ポイント上回っている。



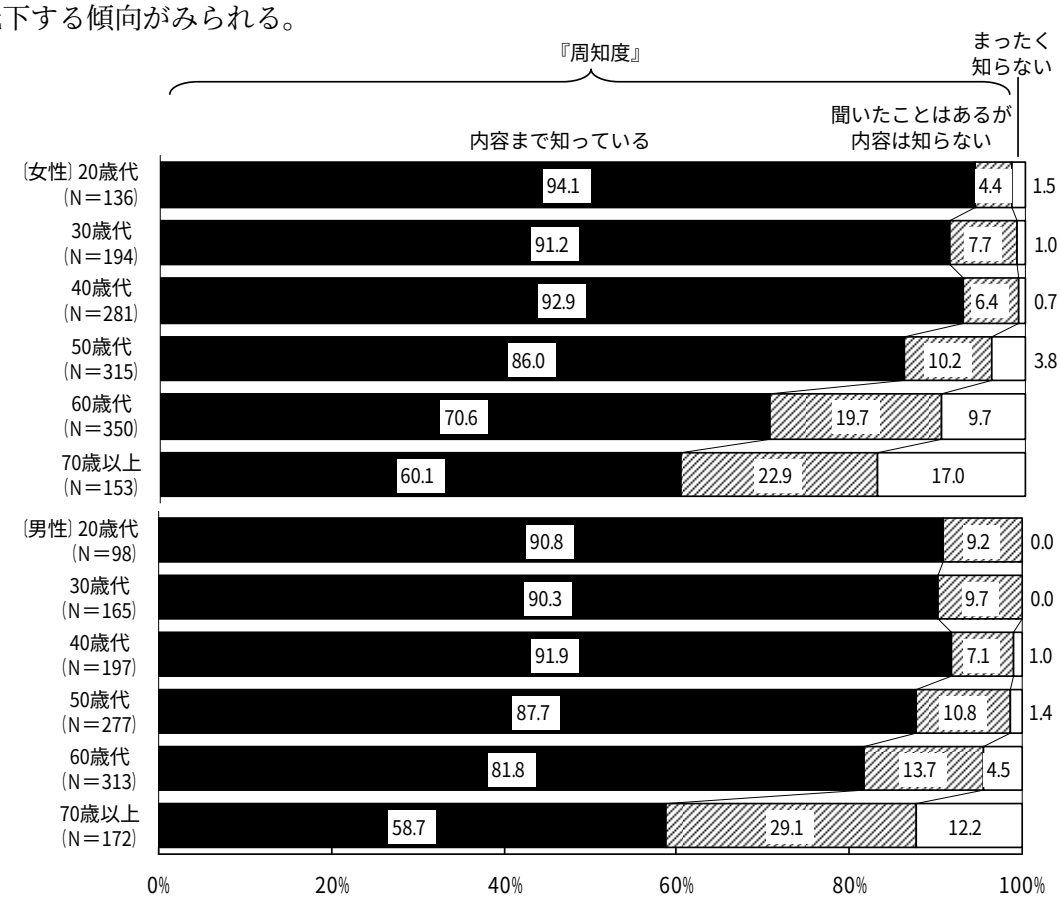
【性別】

『周知度』は女性 94.5%、男性 96.7%となっている。



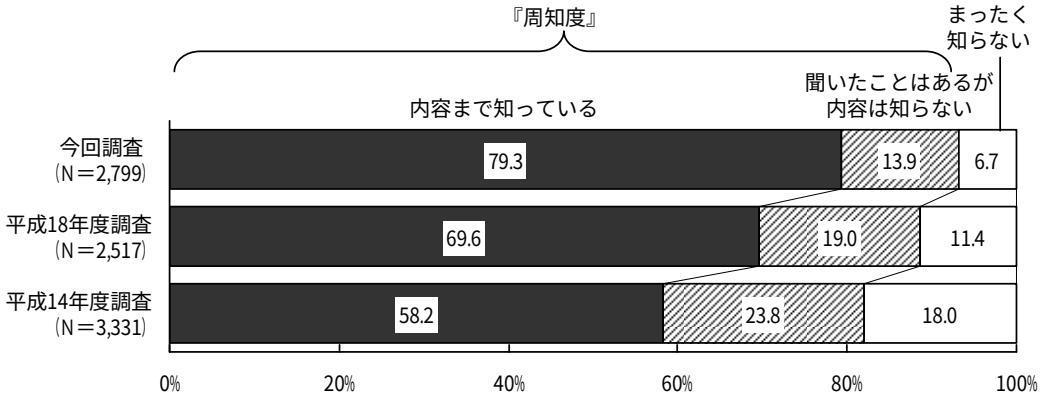
【性・年代別】

『周知度』は、男性の 20～30 歳代では 100.0%となっており、男女とも年代が高くなるにつれて、割合が低下する傾向がみられる。



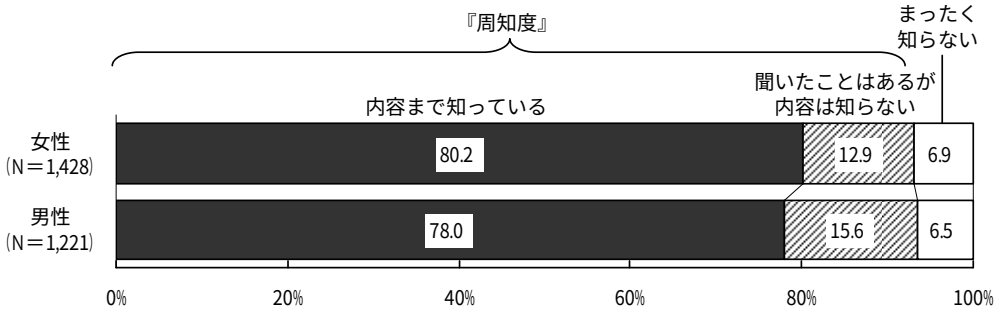
（7）ドメスティック・バイオレンス（夫婦、恋人間の暴力）

「ドメスティック・バイオレンス」の『周知度』は 93.2%となっており、平成 18 年度調査（88.6%）を 4.6 ポイント上回っている。



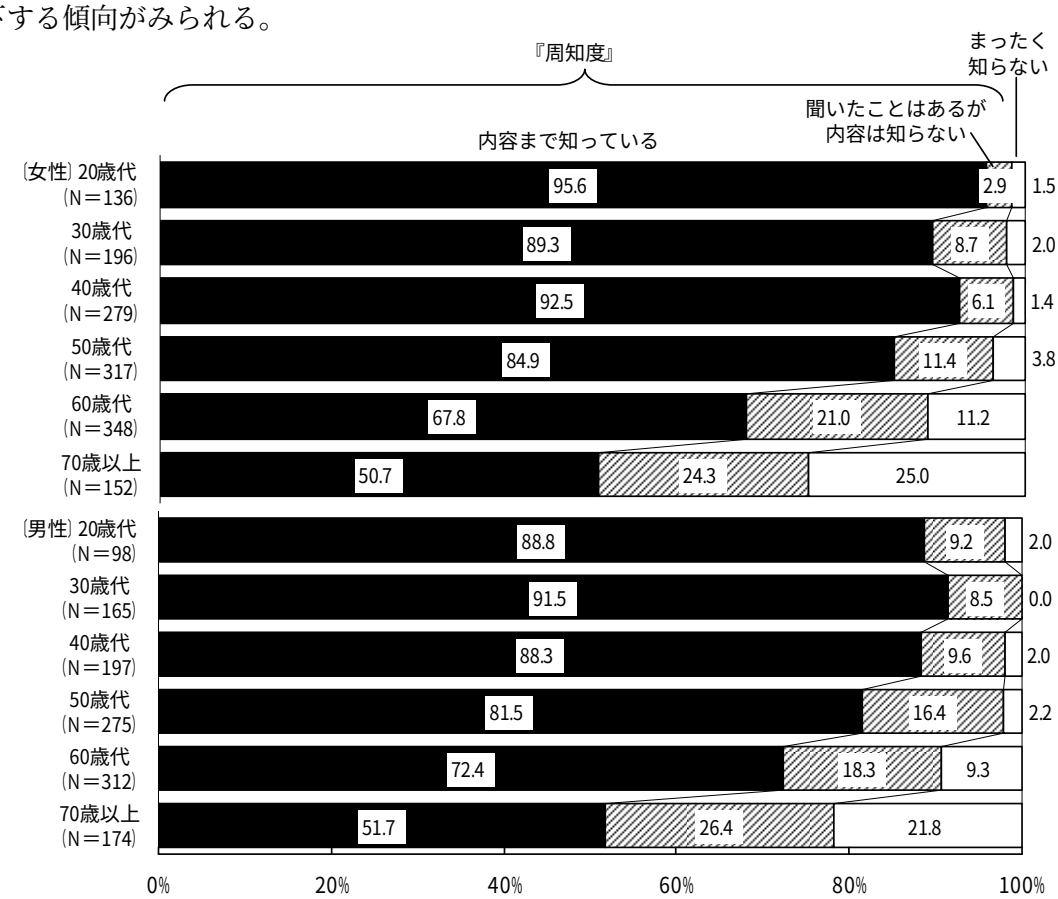
【性別】

『周知度』は、女性 93.1%、男性 93.6%と男女とも 9 割を超えている。



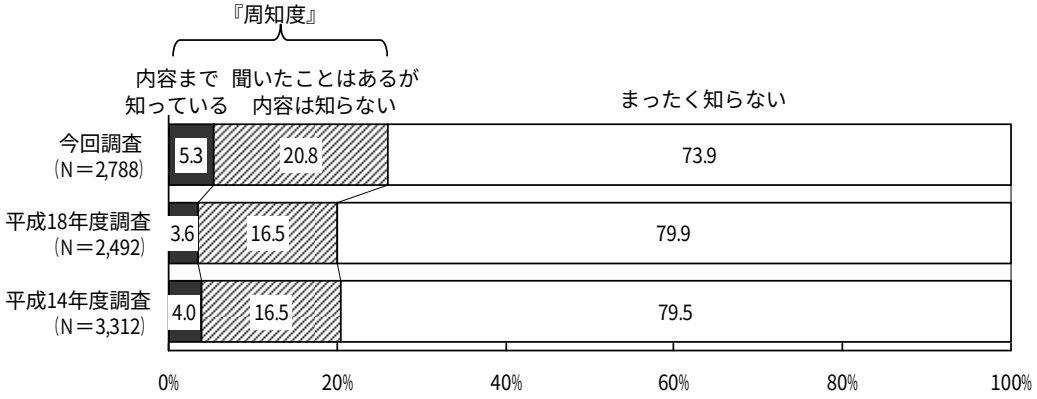
【性・年代別】

『周知度』は、男性の 30 歳代では 100.0%となっており、男女とも年代が高くなるにつれて、割合が低下する傾向がみられる。



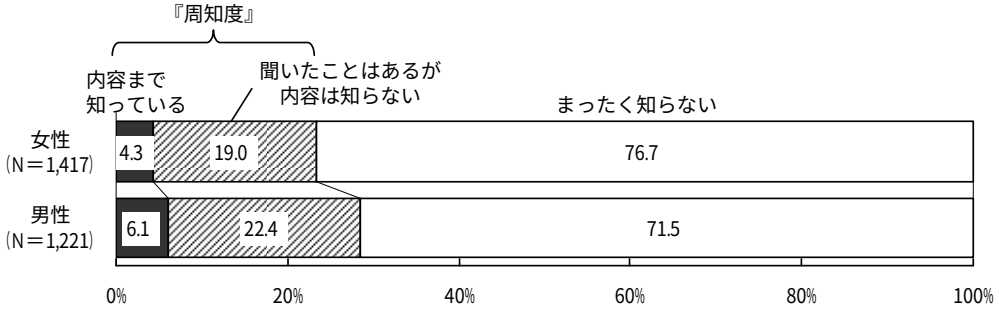
（８）リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の『周知度』は 26.1%となっており、平成 18 年度調査（20.1%）を 6.0 ポイント上回っている。



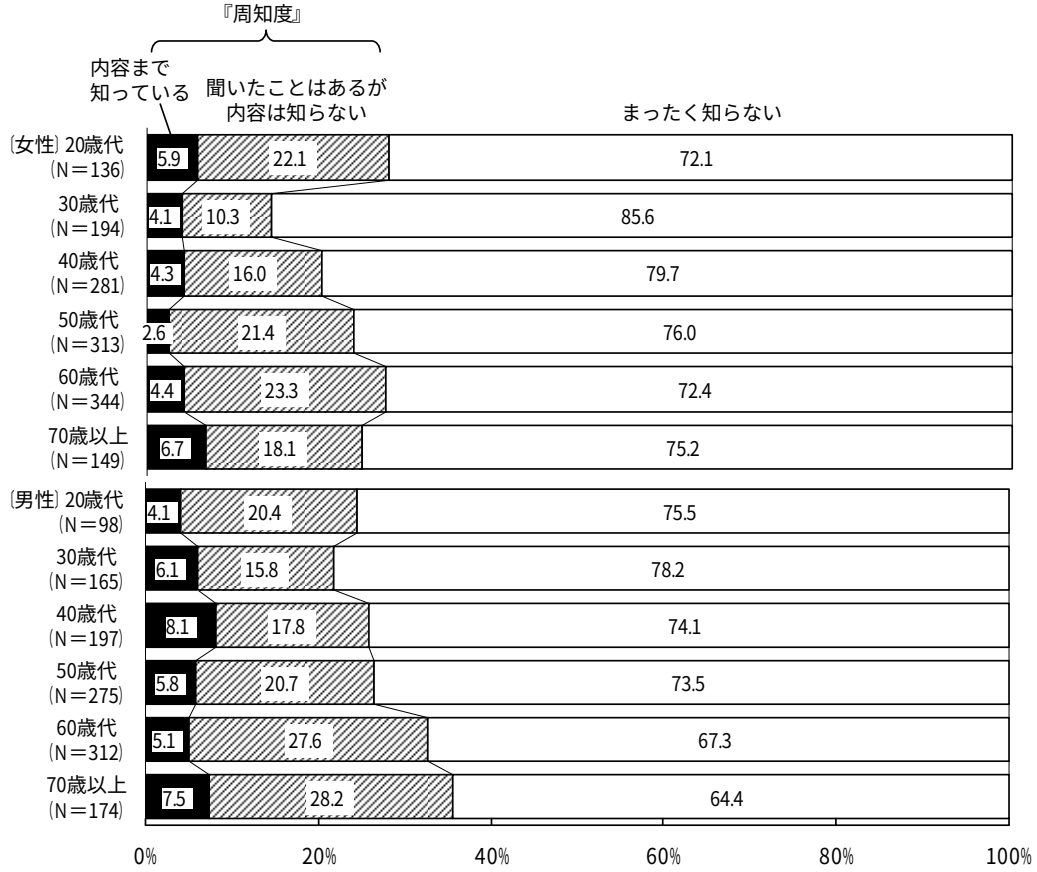
【性別】

『周知度』は、女性 23.3%、男性 28.5%で、男性の方が 5.2 ポイント上回っている。



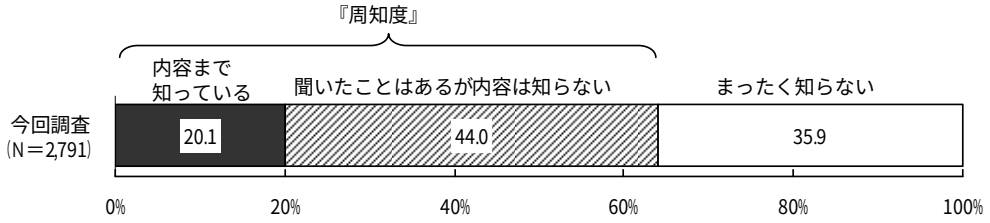
【性・年代別】

『周知度』は、女性では 20 歳代が 28.0%で最も高く、男性では 70 歳以上で 35.7%と高くなっている。



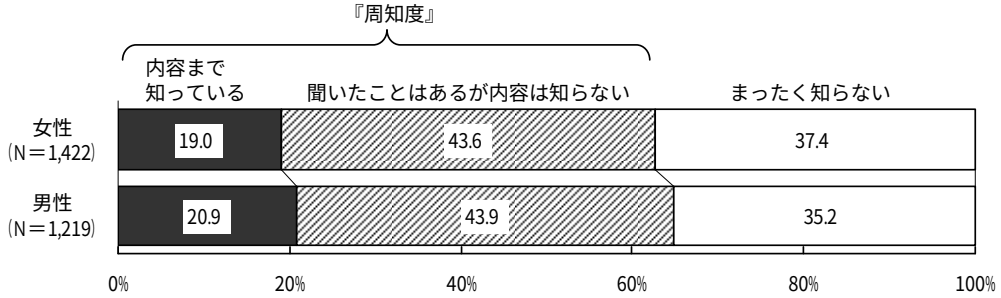
（9）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

「ワーク・ライフ・バランス」の『周知度』は 64.1%となっている。



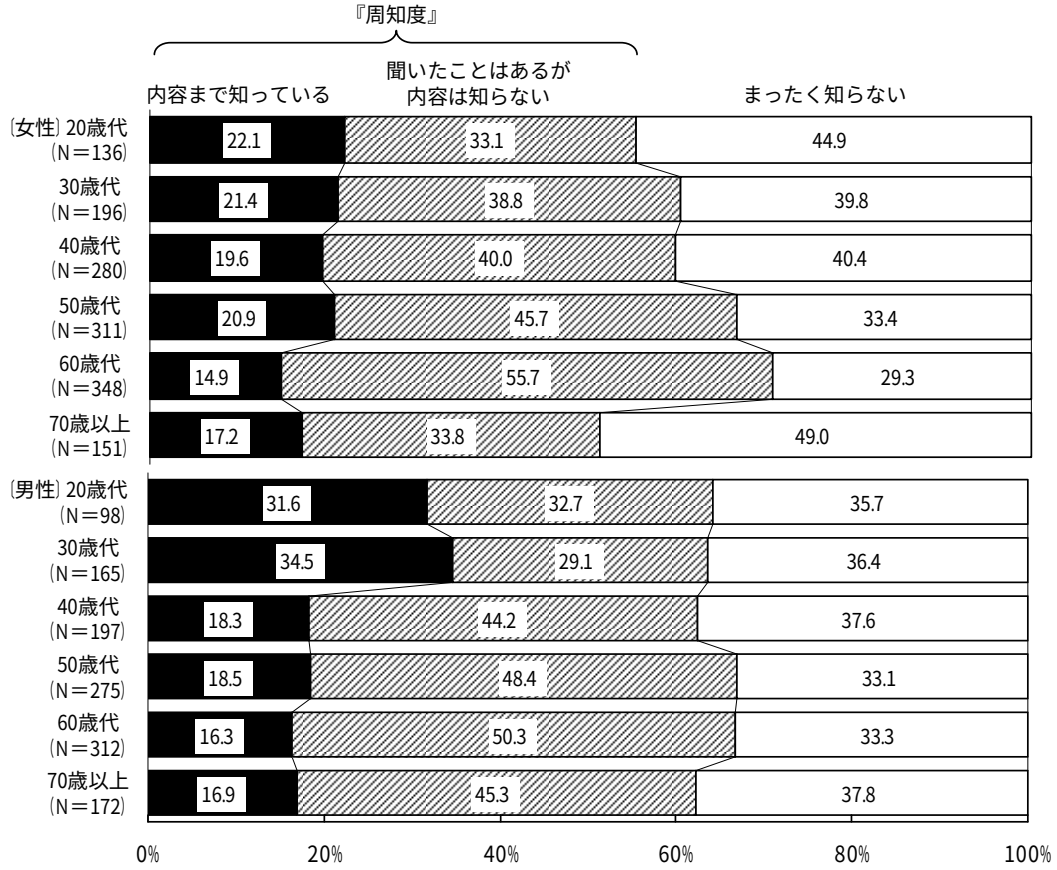
【性別】

『周知度』は、女性 62.6%、男性 64.8%で、男性が 2.2 ポイント上回っている。



【性・年代別】

「内容まで知っている」は男性の 20～30 歳代で高く、３割を超えている。



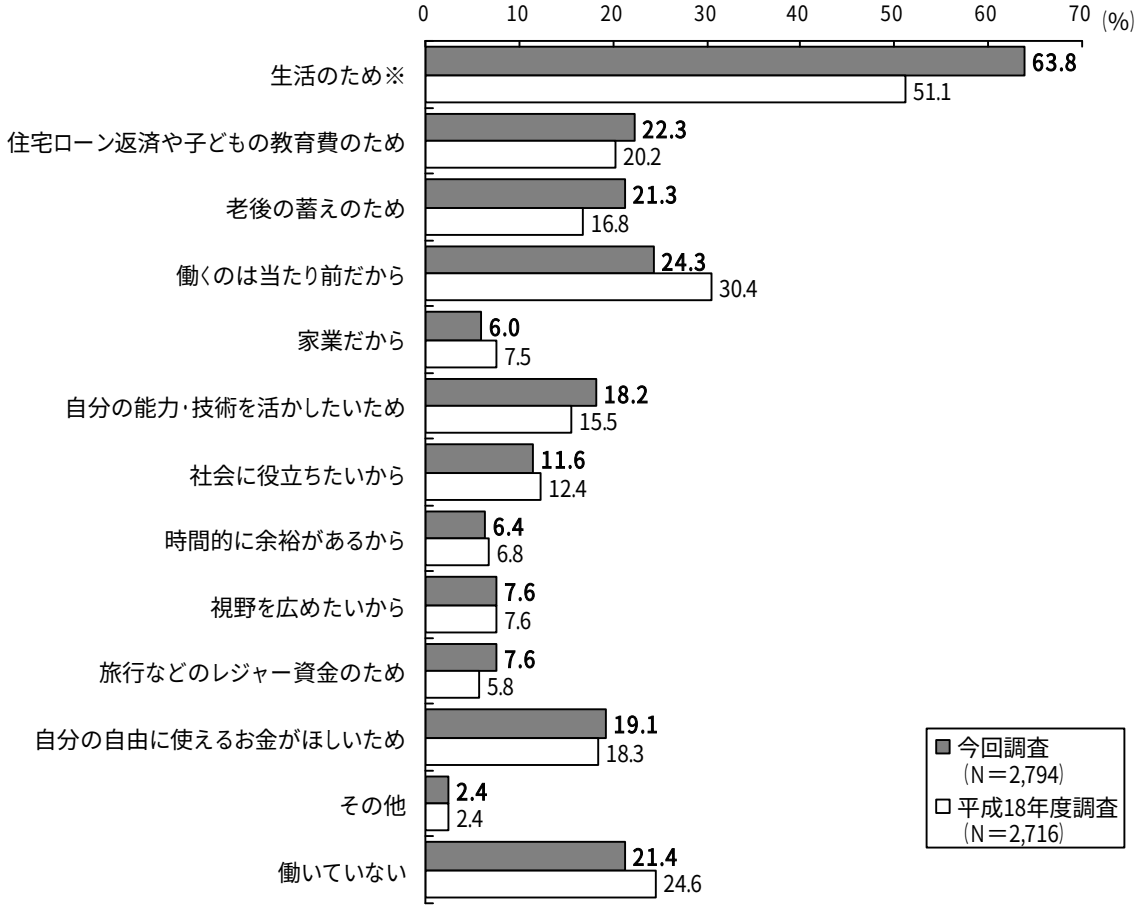
2．仕　事

1　仕事をする目的

（あてはまるものを３つまで選択）

● 「生活のため」が６割を超える

仕事をする目的は、「生活のため」が 63.8%で最も多く、次いで「働くのは当たり前だから」(24.3%)、「住宅ローン返済や子どもの教育費のため」(22.3%）の順となっている。
平成 18 年度調査と比較すると、「生活のため」が 12.7 ポイント高くなっている。

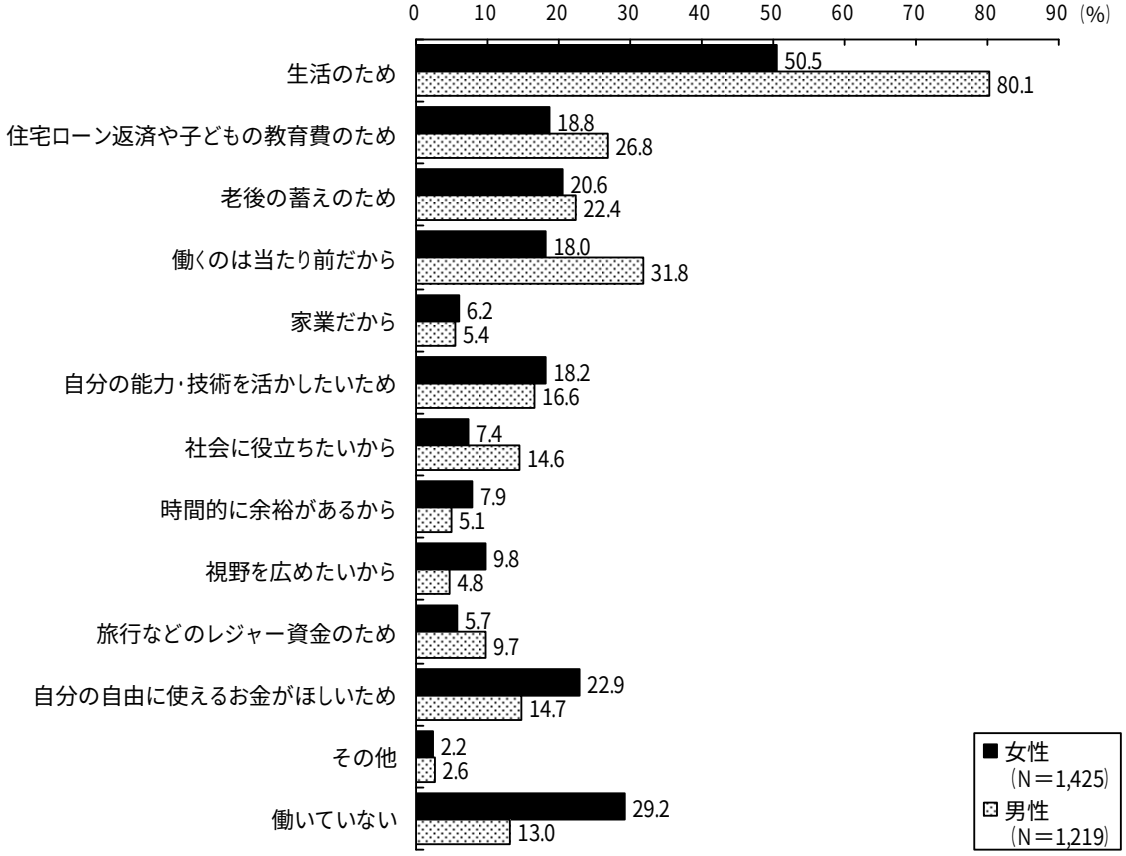


※平成 18 年度調査では「生活のため」の選択肢は、「収入がないと生活できないから」となっている。

【性別】

● 男女ともに「生活のため」が最も多く、男性では 8 割を超える

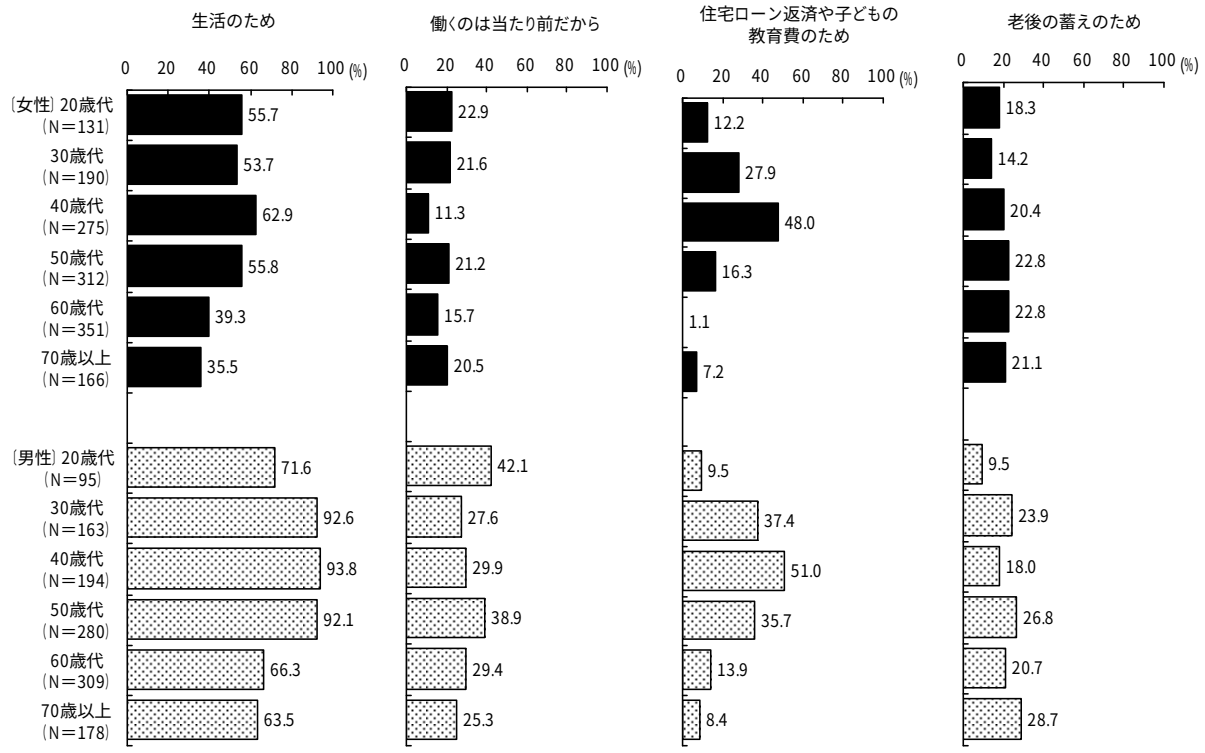
男女ともに「生活のため」が最も多く、女性 50.5%、男性 80.1%で、男性が女性を 29.6 ポイント上回っている。次いで割合の高い項目は、男性では「働くのは当たり前だから」(31.8%)で、女性より 13.8 ポイント高く、女性では「自分の自由に使えるお金がほしいため」(22.9%)で男性より 8.2 ポイント高くなっている。

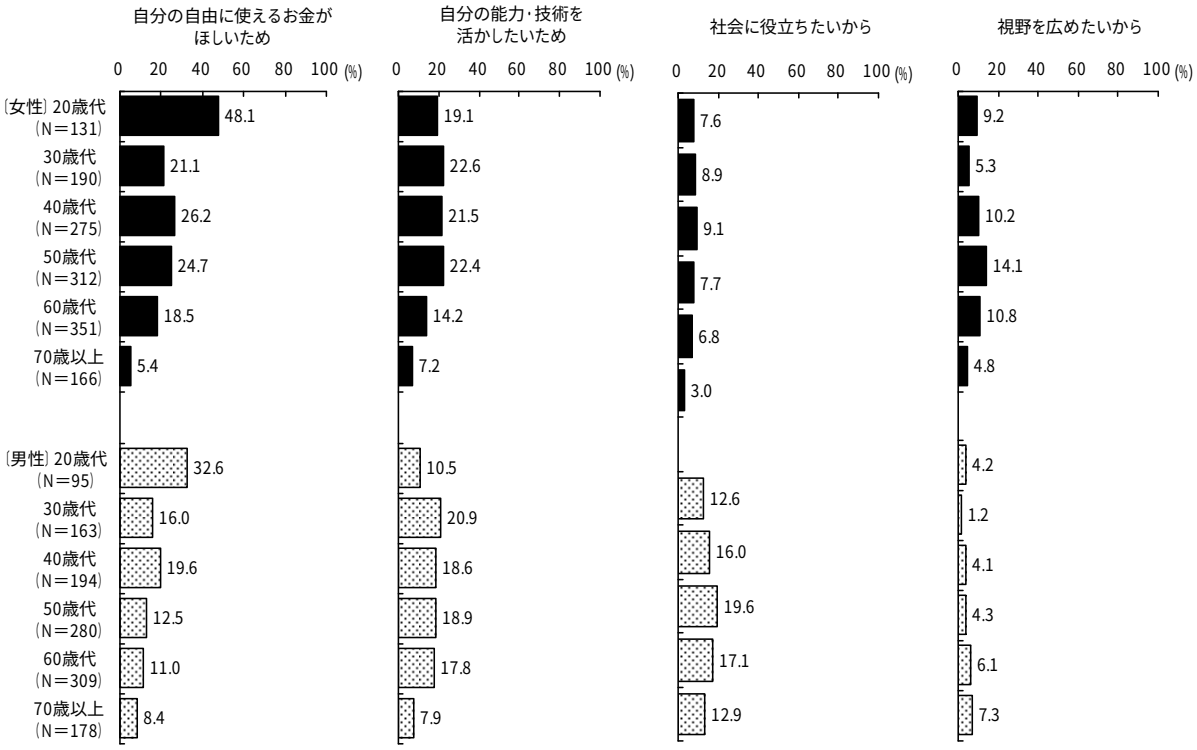


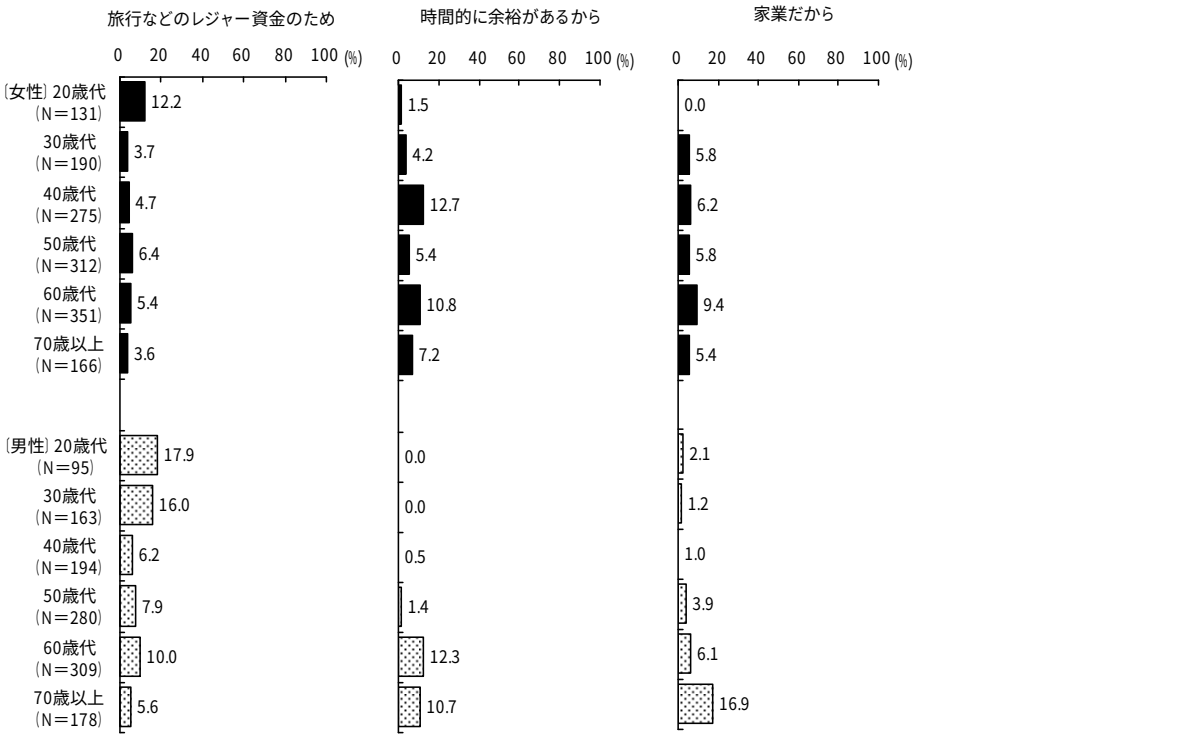
【性・年代別】

● 男性の 30～50 歳代では「生活のため」が９割

「生活のため」は男性の 30～50 歳代で高く９割を超えている。また、「住宅ローン返済や子どもの教育費のため」は男女とも 40 歳代が最も高く、「自分の自由に使えるお金がほしいため」は男女ともに 20 歳代で高くなっている。



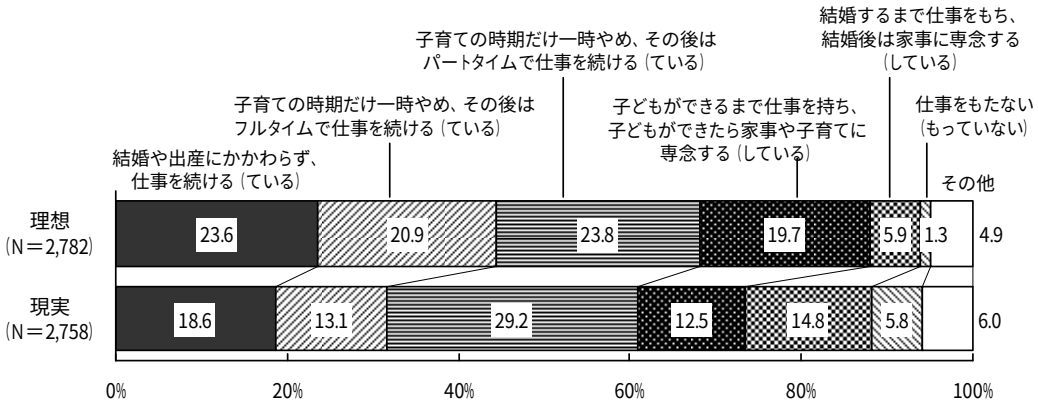

自分の自由に使えるお金がほしいため
自分の能力・技術を活かしたいため
社会に役立ちたいから
視野を広めたいから
0 20 40 60 80 100 (%)
〔女性〕20歳代（N＝131）
30歳代（N＝190）
40歳代（N＝275）
50歳代（N＝312）
60歳代（N＝351）
70歳以上（N＝166）
〔男性〕20歳代（N＝95）
30歳代（N＝163）
40歳代（N＝194）
50歳代（N＝280）
60歳代（N＝309）
70歳以上（N＝178）
48.1 21.1 26.2 24.7 18.5 5.4 32.6 16.0 19.6 12.5 11.0 8.4
19.1 22.6 21.5 22.4 14.2 7.2 10.5 20.9 18.6 18.9 17.8 7.9
7.6 8.9 9.1 7.7 6.8 3.0 12.6 16.0 19.6 17.1 12.9
9.2 5.3 10.2 14.1 10.8 4.8 4.2 1.2 4.1 4.3 6.1 7.3


旅行などのレジャー資金のため
時間的に余裕があるから
家業だから
0 20 40 60 80 100 (%)
〔女性〕20歳代（N＝131）
30歳代（N＝190）
40歳代（N＝275）
50歳代（N＝312）
60歳代（N＝351）
70歳以上（N＝166）
〔男性〕20歳代（N＝95）
30歳代（N＝163）
40歳代（N＝194）
50歳代（N＝280）
60歳代（N＝309）
70歳以上（N＝178）
12.2 3.7 4.7 6.4 5.4 3.6 17.9 16.0 6.2 7.9 10.0 5.6
1.5 4.2 12.7 5.4 10.8 7.2 0.0 0.0 0.5 1.4 12.3 10.7
0.0 5.8 6.2 5.8 9.4 5.4 2.1 1.2 1.0 3.9 6.1 16.9

2 女性の働き方

● **理想は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」がやや高く、現実は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている」が高い**

女性の働き方について、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている）」、「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたら家事や子育てに専念する（している）」は、理想の方が現実よりもそれぞれ 7.8 ポイント、7.2 ポイント高く、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている）」、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している）」は、現実の方がそれぞれ 5.4 ポイント、8.9 ポイント高くなっている。



【性別】

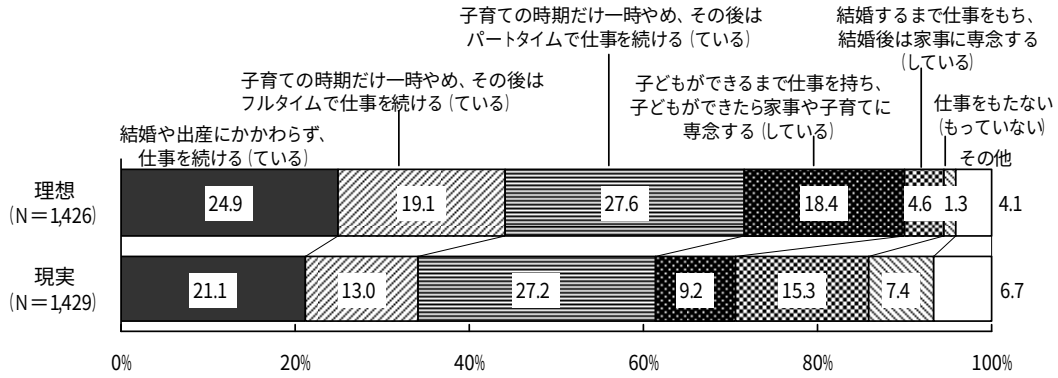
● **現実は男女とも「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が多い**

女性の理想は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多く、次いで「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける」となっている。

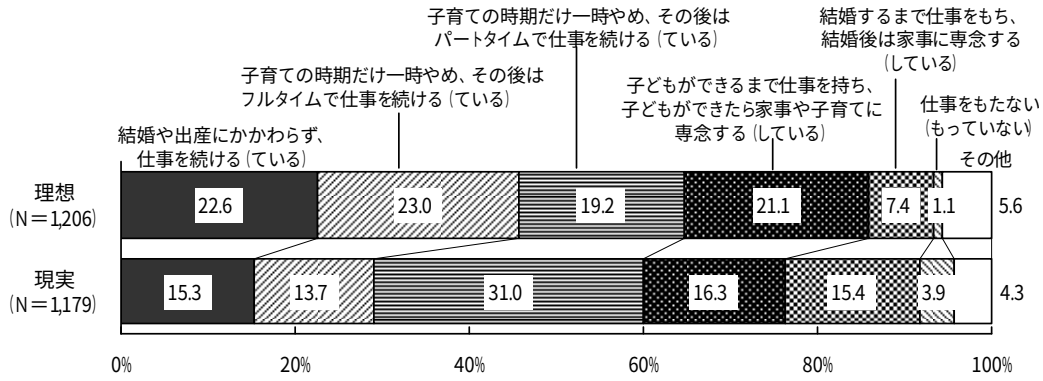
男性の理想は、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が他の項目と比べて若干多くなっている。

現実は男女とも「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多い。

〔女性〕



〔男性〕



【性・年代別】

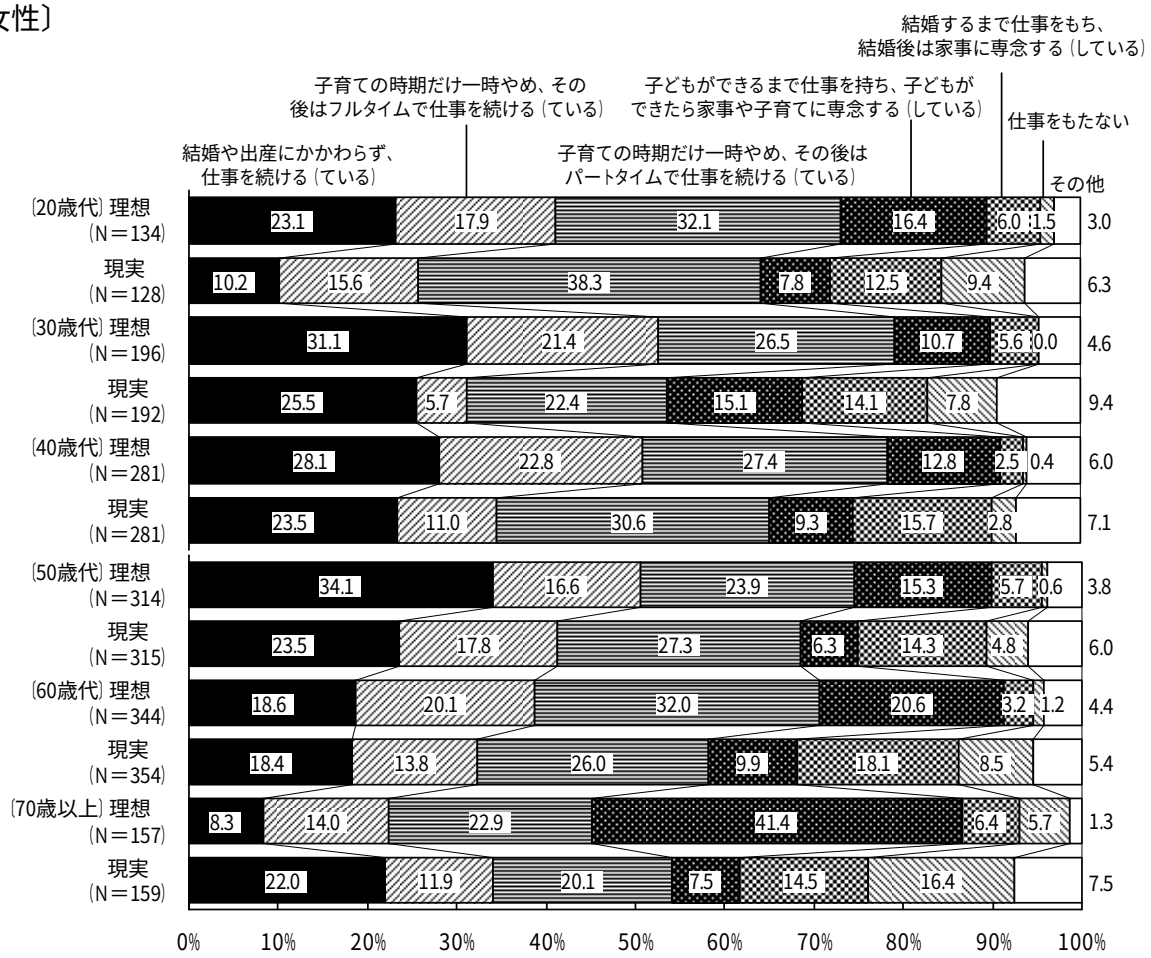
● 男女とも年齢が高くなるほど、何らかの形で仕事を続ける割合が低くなる傾向にある

男女とも理想は、結婚や子育て後も何らかの形で仕事を続けるというのは、年齢が高くにつれて、割合が下がる傾向となっている。

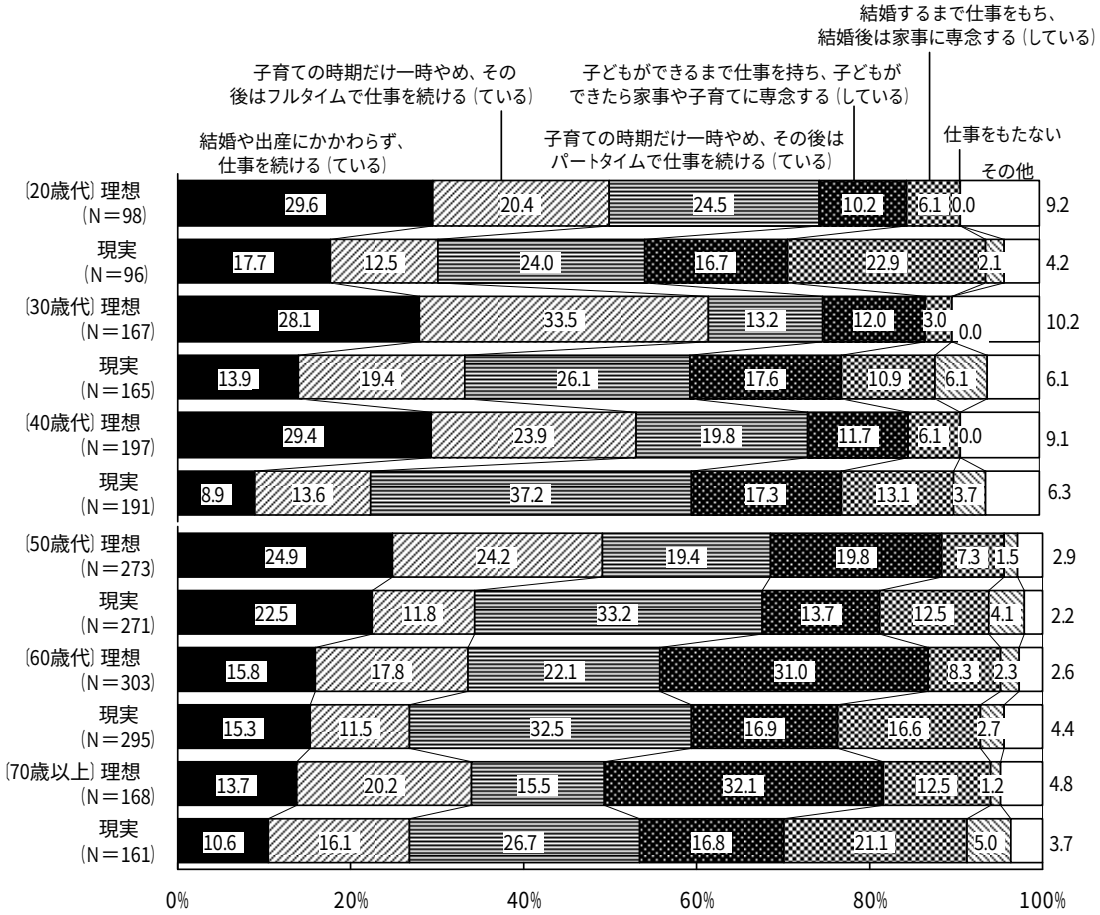
女性の理想は 30～50 歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける」が最も多いが、現実は 20 歳代と 40～60 歳代で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている」が最も多くなっている。

男性では、理想は 20 歳代と 40～50 歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けている」が最も多いが、現実はすべての年代で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続けている」が最も多くなっている。

〔女性〕



〔男性〕

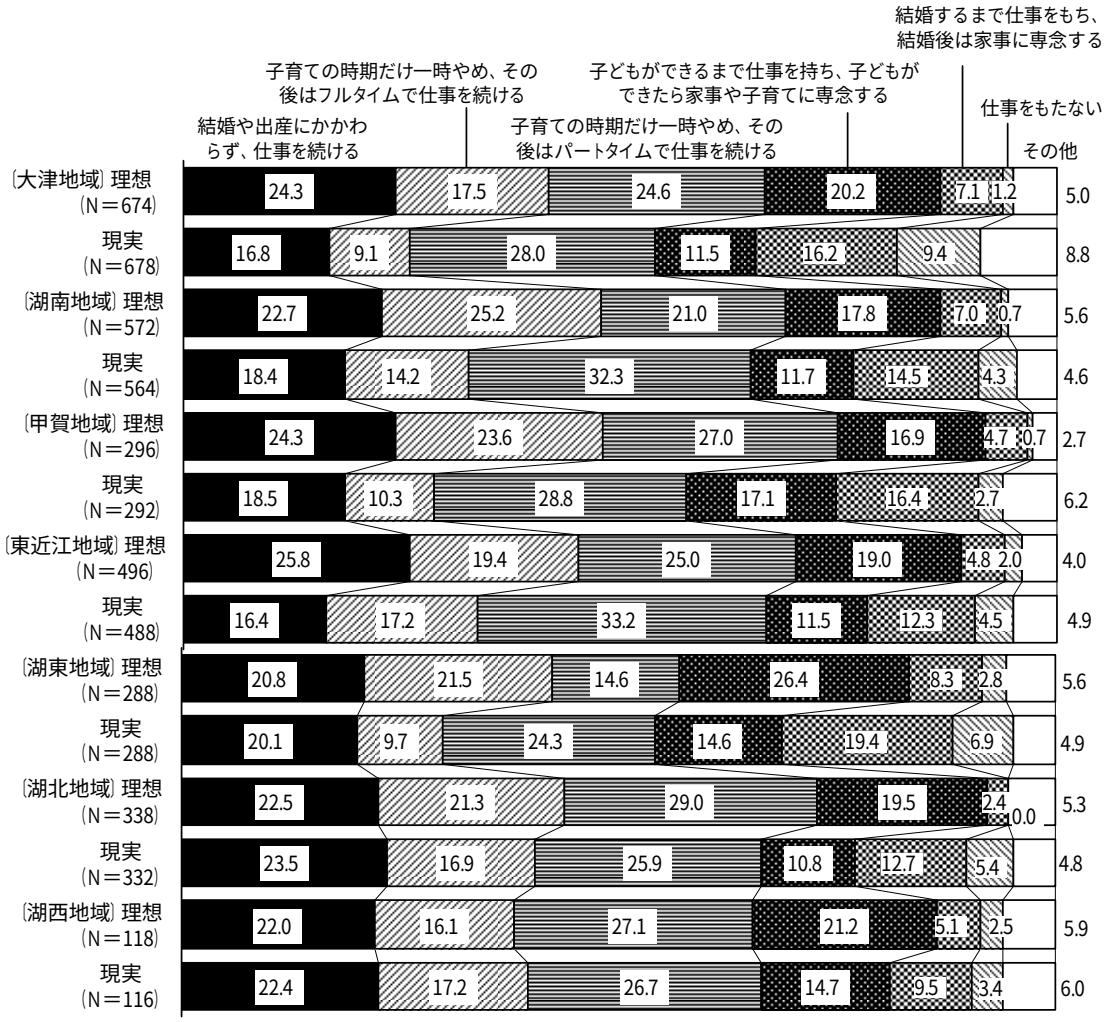

結婚するまで仕事をもち、
結婚後は家事に専念する（している）
子育ての時期だけ一時やめ、その
後はフルタイムで仕事を続ける（ている）
子どもができるまで仕事を持ち、子どもが
できたら家事や子育てに専念する（している）
結婚や出産にかかわらず、
仕事を続ける（ている）
子育ての時期だけ一時やめ、その後は
パートタイムで仕事を続ける（ている）
仕事をもたない
その他
〔20歳代〕理想（N＝98）
29.6 20.4 24.5 10.2 6.1 0.0 9.2
現実（N＝96）
17.7 12.5 24.0 16.7 22.9 2.1 4.2
〔30歳代〕理想（N＝167）
28.1 33.5 13.2 12.0 3.0 0.0 10.2
現実（N＝165）
13.9 19.4 26.1 17.6 10.9 6.1 6.1
〔40歳代〕理想（N＝197）
29.4 23.9 19.8 11.7 6.1 0.0 9.1
現実（N＝191）
8.9 13.6 37.2 17.3 13.1 3.7 6.3
〔50歳代〕理想（N＝273）
24.9 24.2 19.4 19.8 7.3 1.5 2.9
現実（N＝271）
22.5 11.8 33.2 13.7 12.5 4.1 2.2
〔60歳代〕理想（N＝303）
15.8 17.8 22.1 31.0 8.3 2.3 2.6
現実（N＝295）
15.3 11.5 32.5 16.9 16.6 2.7 4.4
〔70歳以上〕理想（N＝168）
13.7 20.2 15.5 32.1 12.5 1.2 4.8
現実（N＝161）
10.6 16.1 26.7 16.8 21.1 5.0 3.7
0%
20%
40%
60%
80%
100%

【地域別】

● **現実は、すべての地域で「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が多い**

「湖南地域」では、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」で理想と現実の差が１割強ある。

また、「甲賀地域」では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が理想では 23.6%、現実では 10.3%と割合が低くなっており、12.3%の差がある。

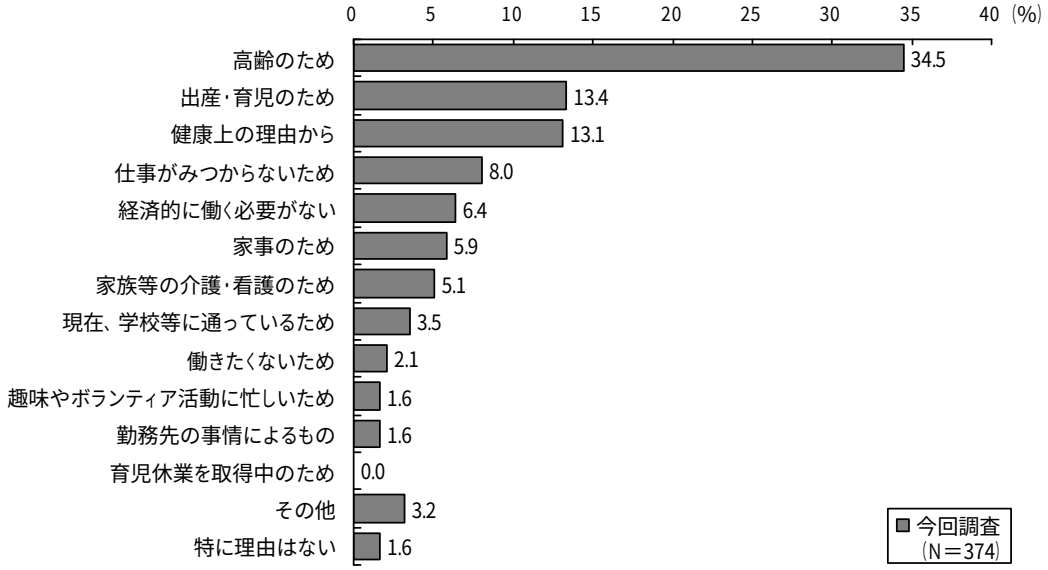


3 働いていない理由

（※「女性」で「働いていない」人のみ回答、あてはまるものを１つだけ選択）

● 「高齢のため」が 34.5%

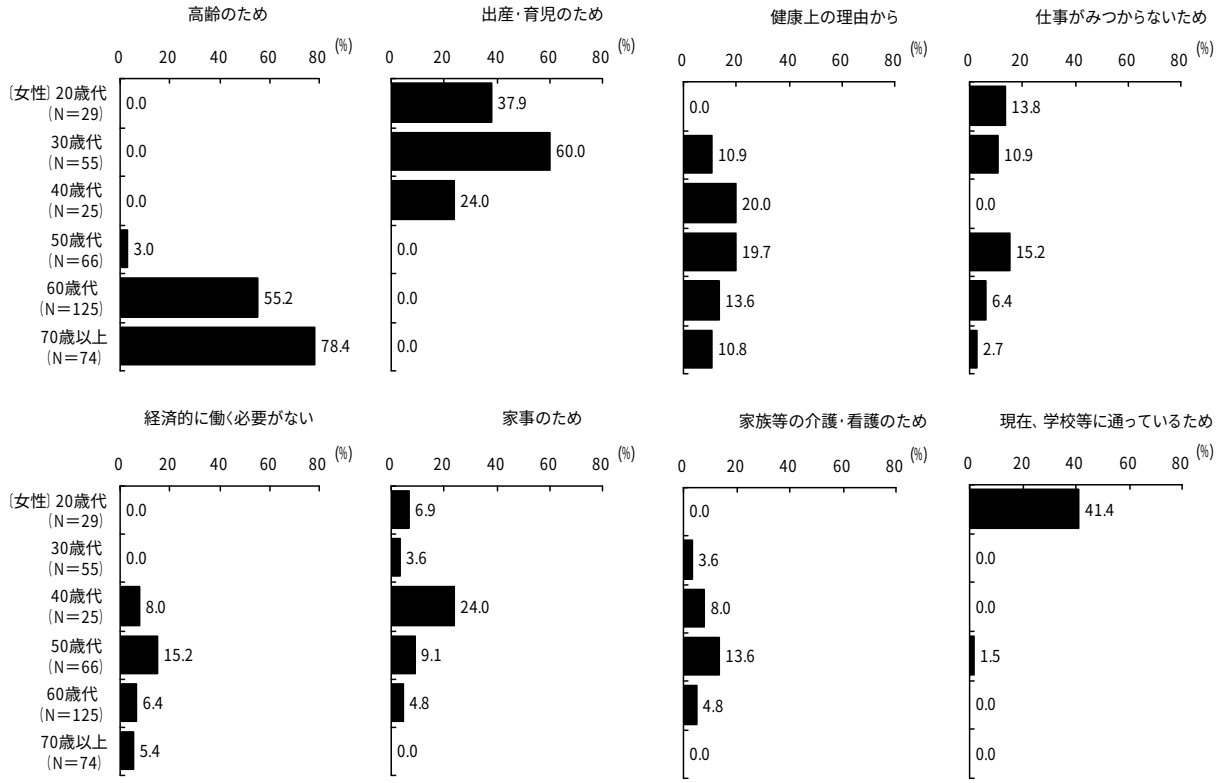
現在働いていない理由は、「高齢のため」が 34.5%と最も多く、次いで「出産・育児のため」（13.4%）、「健康上の理由から」（13.1%）の順となっている。



【性・年代別】

● 20～30 歳代は「出産・育児のため」が多い

20～30 歳代では「出産・育児のため」が多くなっている。

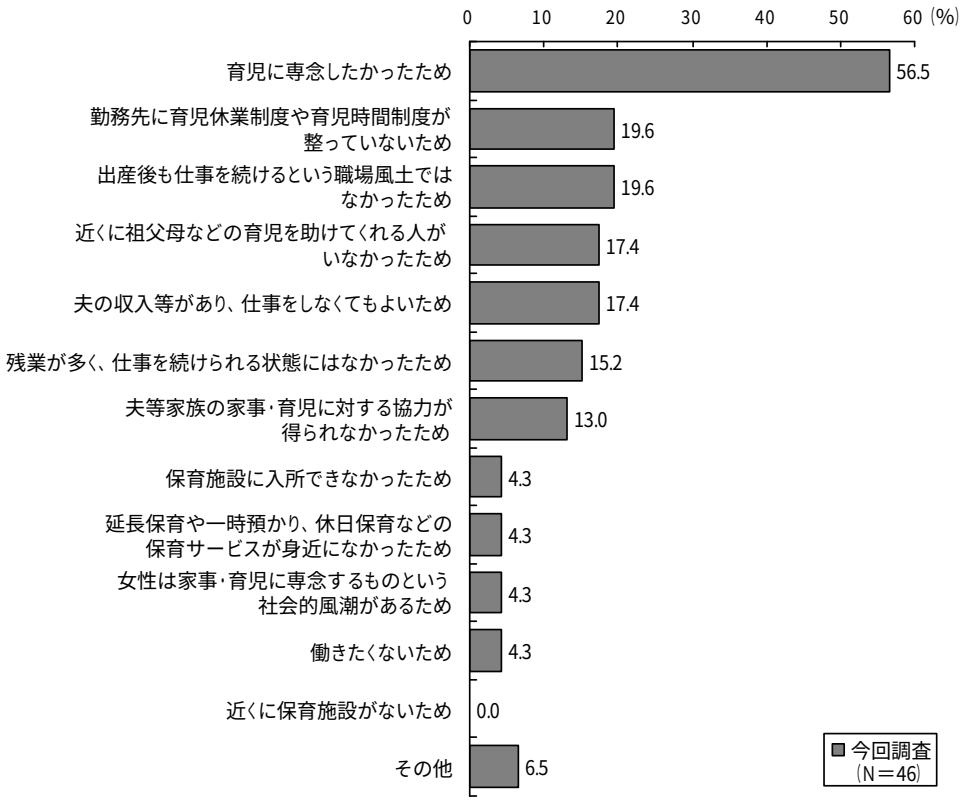


4　出産・育児のために働いていない理由

（※３で「出産・育児のため」と回答した人のみ、あてはまるものをすべて選択）

●　「育児に専念したかったため」が５割を超える

出産・育児のために働いていない理由は、「育児に専念したかったため」が 56.5%で最も多く、次いで「勤務先に育児休業制度や育児時間制度が整っていないため」と「出産後も仕事を続けるという職場風土ではなかったため」が同率の 19.6%で続いている。

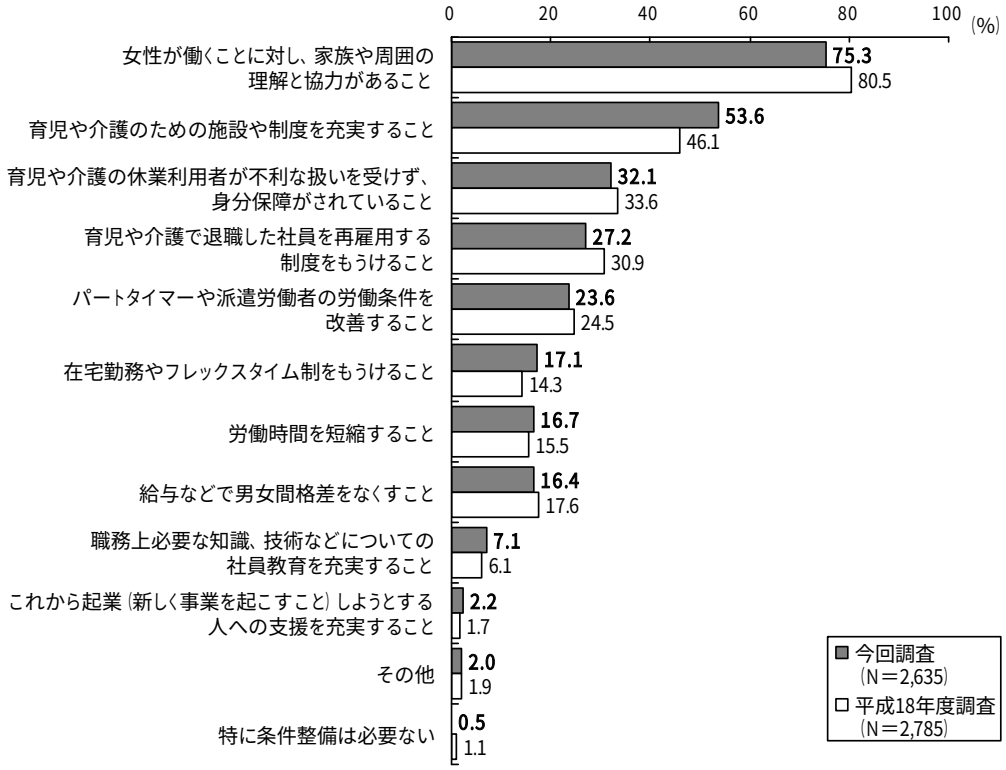


5　女性が仕事を続けていくために必要なこと

（あてはまるものを３つまで選択）

●　「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が７割以上

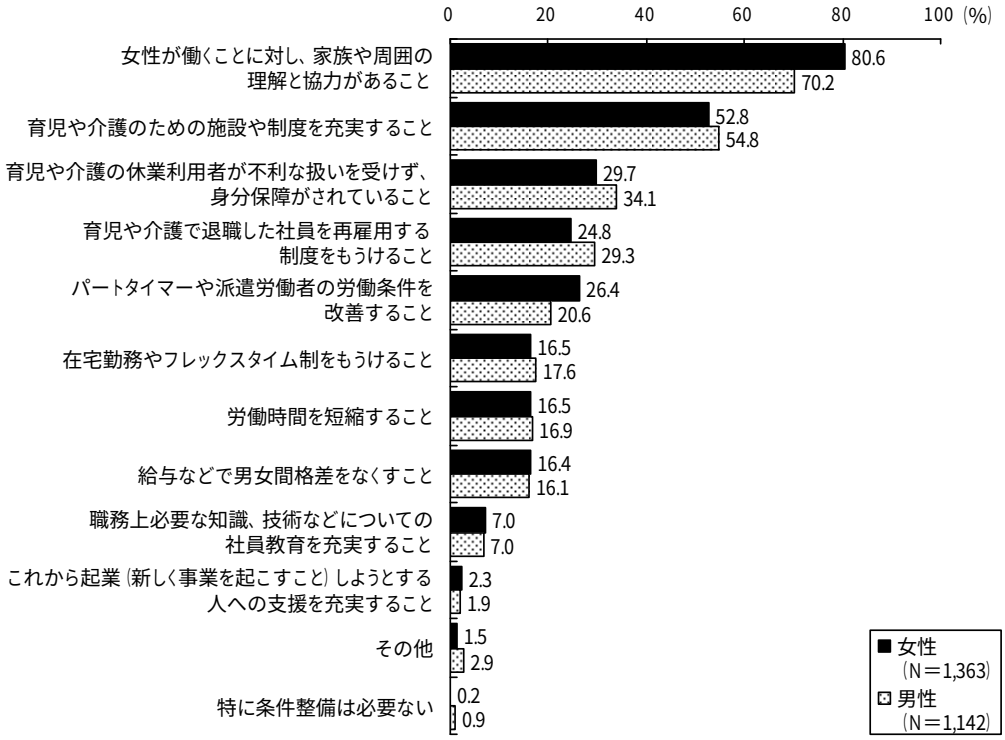
女性が仕事を続けていくために必要なことは、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が 75.3%で最も多く、次いで「育児や介護のための施設や制度を充実すること」（53.6%）、「育児や介護の休業利用者が不利な扱いを受けず、身分保障がされていること」（32.1%）、「育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること」（27.2%）の順となっている。



【性別】

●男女とも「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多い

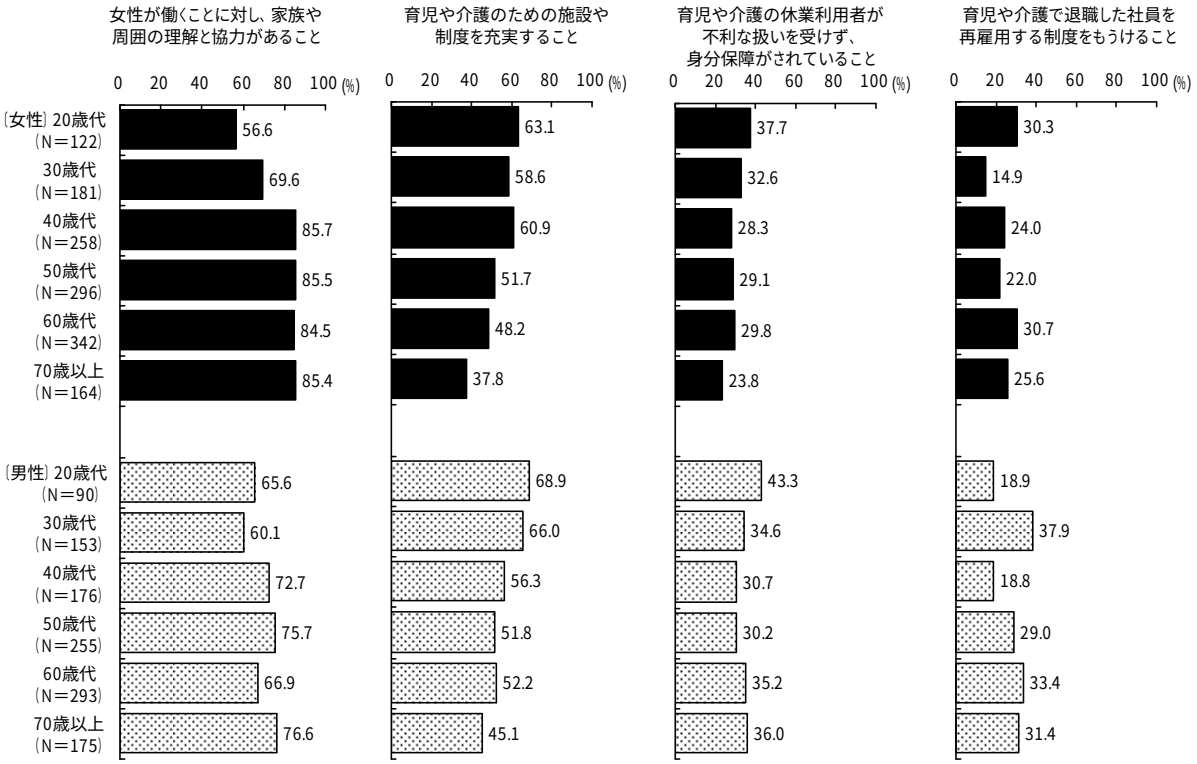
男女とも「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多くなっており、女性が 80.6%で男性（70.2%）を 10.4 ポイント上回っている。

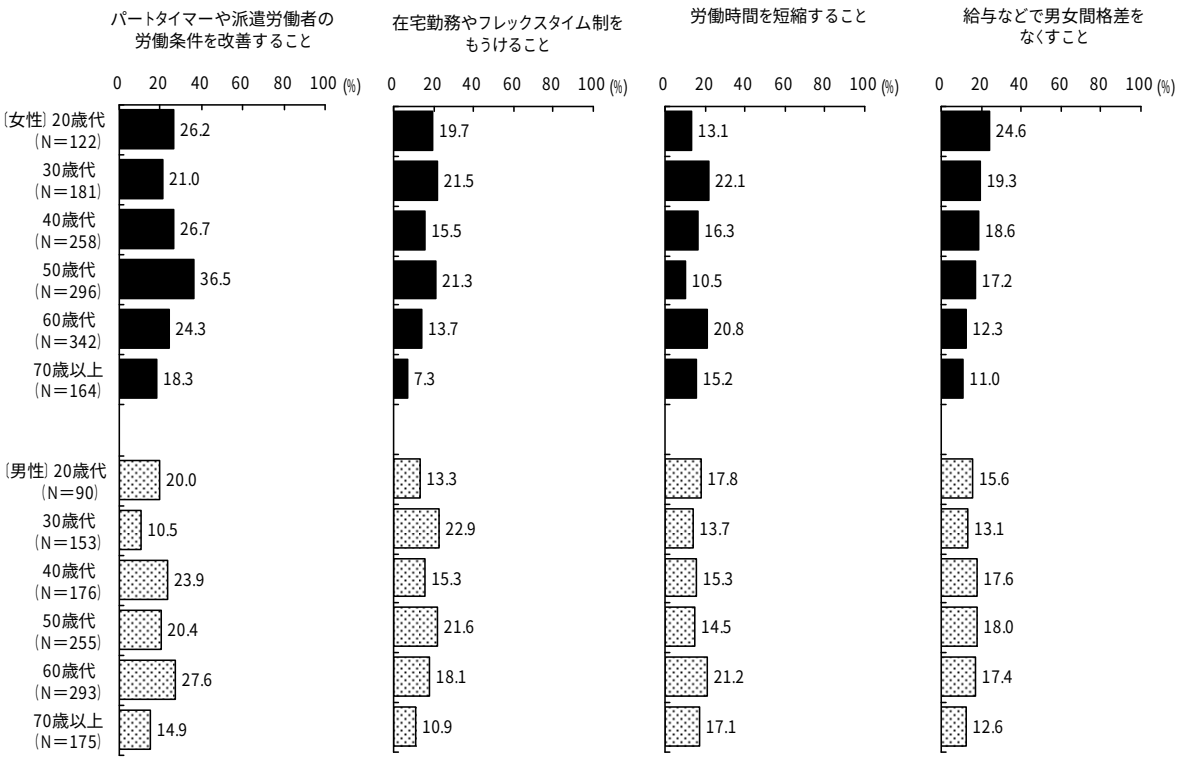


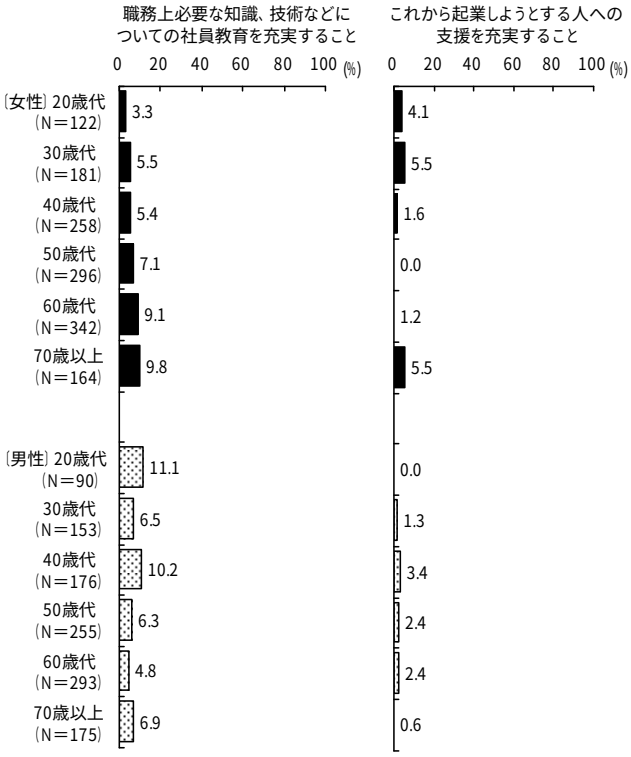
【性・年代別】

● 20～30 歳代では「育児や介護のための施設や制度を充実すること」が高い

女性の 20 歳代、男性の 20～30 歳代では「育児や介護のための施設や制度を充実すること」が最も多く、男女ともその他の年代では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多くなっている。




パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること
在宅勤務やフレックスタイム制をもうけること
労働時間を短縮すること
給与などで男女間格差をなくすこと
0 20 40 60 80 100 (%)
〔女性〕20歳代（N＝122）
30歳代（N＝181）
40歳代（N＝258）
50歳代（N＝296）
60歳代（N＝342）
70歳以上（N＝164）
〔男性〕20歳代（N＝90）
30歳代（N＝153）
40歳代（N＝176）
50歳代（N＝255）
60歳代（N＝293）
70歳以上（N＝175）
26.2 21.0 26.7 36.5 24.3 18.3 20.0 10.5 23.9 20.4 27.6 14.9
19.7 21.5 15.5 21.3 13.7 7.3 13.3 22.9 15.3 21.6 18.1 10.9
13.1 22.1 16.3 10.5 20.8 15.2 17.8 13.7 15.3 14.5 21.2 17.1
24.6 19.3 18.6 17.2 12.3 11.0 15.6 13.1 17.6 18.0 17.4 12.6


職務上必要な知識、技術などについての社員教育を充実すること
これから起業しようとする人への支援を充実すること
0 20 40 60 80 100 (%)
〔女性〕20歳代（N＝122）
30歳代（N＝181）
40歳代（N＝258）
50歳代（N＝296）
60歳代（N＝342）
70歳以上（N＝164）
〔男性〕20歳代（N＝90）
30歳代（N＝153）
40歳代（N＝176）
50歳代（N＝255）
60歳代（N＝293）
70歳以上（N＝175）
3.3 5.5 5.4 7.1 9.1 9.8 11.1 6.5 10.2 6.3 4.8 6.9
4.1 5.5 1.6 0.0 1.2 5.5 0.0 1.3 3.4 2.4 2.4 0.6